

学校要覧 2022

National Institute of Technology, Okinawa College

本科

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科

専攻科

- 創造システム工学専攻

沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ
咲かせよう未来 最南の地から最先端へ



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校



ご挨拶

独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
校長 佐藤 貴哉

沖縄工業高等専門学校は、2004年に最も新しい国立高専として、辺野古の青い海を臨み、やんばるの森を背にする自然豊かな地に創設されました。間もなく創立20周年を迎える沖縄高専は、創設以来一貫して『人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者』の育成に邁進してまいりました。本校では、実験・実習からスタートし、自分の目で見て、考え、最終的に論理まで理解する教育方法がとられており、最先端の研究・教育設備を駆使して、日本産業のイノベーションをけん引する技術者を育成するための未来志向型教育プログラムが整えられています。

高専の魅力は、本科1年次から大学と同質の教育を受けることができる点にあります。高専教員の多くが博士の学位を取得した研究者です。教員は自身の専門知識や研究成果を踏まえた授業を展開します。学生は基礎から、現在身の回りに有る革新的な科学技術、そして将来達成される未来技術までを抱合したとても興味深い講義を受けることができます。この点は、一般的な高等学校とは大きく異なる魅力です。本校では、航空技術者プログラム、ドローンや水中ロボットの開発、沖縄特産の生物資源を利用した健康食品や医薬品の開発など、独自の取り組みを実施しています。これらの本科5年間に亘る学習や研究活動に学生が取り組むことで、社会が技術者に求める能力、すなわち自分で課題を発見し、自分で考え行動し、結論まで導く力を身に付けていきます。そして、卒業生は創造的リーダー技術者となって、世界に羽ばたきます。

高専のもう一つの魅力は、卒業後の多彩なキャリアパスにあります。就職を希望する学生は90%以上が県内外の企業等に就職します。一方、本科卒業後に専攻科に進学することによって、大学の学士（工学）の学位を取得することができます。その後に大学院に進学する学生も数多くいます。また、本科卒業時と同時に大学の三年生に編入学することも可能です。高専とはちがった環境で学士取得を目指す学生も数多くいます。

そして、今や高専教育は世界ブランドとなりました。様々な国々で「KOSEN」の設置が進んでいます。タイにもKOSENが二校設置されました。本校からも教員がタイに派遣され、タイの技術者教育に貢献しています。本校はこの世界的なネットワークを通じて、学生皆さんの海外経験や国際力強化を支援します。

皆さん、沖縄の地で最先端の科学技術を基礎から学び、沖縄や日本、そして世界に貢献できるプロフェッショナルを目指しませんか。本校は皆さんの夢をかなえるお手伝いをします。

令和4年6月

目 次

ご挨拶	沖縄工業高等専門学校 校長 佐藤 貴哉	◆入学志願者及び入学者数	31
沿革	3	◆地域別入学者数	32
高等専門学校の概要	4	◆高等学校等就学支援金制度	33
組織	5	◆奨学生	33
◆会議・委員会	5	◆主な学費	33
◆事務部連絡先	5	◆高等教育の修学支援新制度	33
◆組織図	6	◆進路状況（本科）	34
役職員一覧	7	◆進路状況（専攻科）	35
◆事務職	7	卒業生のコメント	35
◆技術職	7	学生寮	36
◆教職員数	7	図書館	37
◆歴代校長	8	技術支援室	38
◆名誉教授	8	夢工場	39
教育理念・目的・教育目標	9	広報センター	40
三つの方針	11	多文化共生・国際交流推進本部	41
本科	17	キャリア教育センター	42
■機械システム工学科	17	地域連携研究推進センター	43
■情報通信システム工学科	19	産業界との連携	44
■メディア情報工学科	21	学生相談・支援室	45
■生物資源工学科	23	情報処理センター	45
■総合科学科	25	学生会	46
専攻科	27	九州沖縄地区高専体育大会主要実績	46
■創造システム工学専攻	27	コンテスト関係主要実績	47
特色のある教育	29	女性教員の活躍	48
■航空技術者プログラム	29	収支報告・外部資金	49
■IoT 教育事業	29	◆収入・支出決算額（令和2年度）	49
■未来技術の社会実装教育	30	◆外部資金	49
学 生	31	建物配置図・土地・建物	50
◆学生定員・現員	31		

校章の由来



沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。

沿革

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日の1期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。

沿革の年譜

平成9年（1997）

- 1月22日
沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

平成11年（1999）

- 8月11日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出
- 9月27日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請
- 12月28日
「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

平成12年（2000）

- 3月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置
- 3月17日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置
- 4月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置
- 8月10日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

平成13年（2001）

- 4月20日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置
- 7月27日
国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

平成14年（2002）

- 1月24日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置
- 4月10日
国立学校設置法改正
- 6月5日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表
- 10月1日
沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）初代校長に糸村昌祐が就任
- 10月24日
沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

平成15年（2003）

- 2月27日
沖縄工業高等専門学校起工式の挙行
- 3月31日
事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

平成16年（2004）

- 1月10日
推薦による選抜試験の実施
- 1月28日
第1期工事竣工
- 2月22日
学力検査による選抜試験の実施

- 3月10日
名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催
- 3月22日
事務室を新校舎（辺野古）に移転
- 4月10日
第1回入学式を挙行、175名が入学
- 4月21日
沖縄工業高等専門学校産学連携協力を発足
- 8月2日
学生会発足
- 9月30日
第Ⅱ期工事竣工
- 10月31日
沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催
- 11月5日
沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

平成17年（2005）

- 2月2日
レリーフ除幕式を挙行

平成21年（2009）

- 3月21日
第1回卒業式を挙行、147名が卒業
- 4月1日
専攻科（創造システム工学専攻）を設置
- 4月4日
第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

平成22年（2010）

- 4月1日
第2代校長に伊東繁が就任

平成23年（2011）

- 3月19日
第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了
- 3月25日
専攻科棟竣工

平成24年（2012）

- 4月27日
日本技術者教育認定機構（JABEE）認定

平成25年（2013）

- 4月3日
第10回入学式を挙行、166名が入学
- 9月21日
創立10周年記念式典を挙行

平成27年（2015）

- 4月1日
第3代校長に安藤安則が就任
- 4月1日
航空技術者プログラム設置

令和2年（2020）

- 4月1日
第4代校長に伊原博隆が就任

令和4年（2022）

- 4月1日
第5代校長に佐藤貴哉が就任

高等専門学校の概要

高等専門学校は、昭和30年代の経済成長期に、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者が必要とされたことを背景として、経済産業界からの強い要請により、昭和37年度に創設されました。

現在では、全国に国立51校、公立3校、私立3校の合計57校の高等専門学校があります。

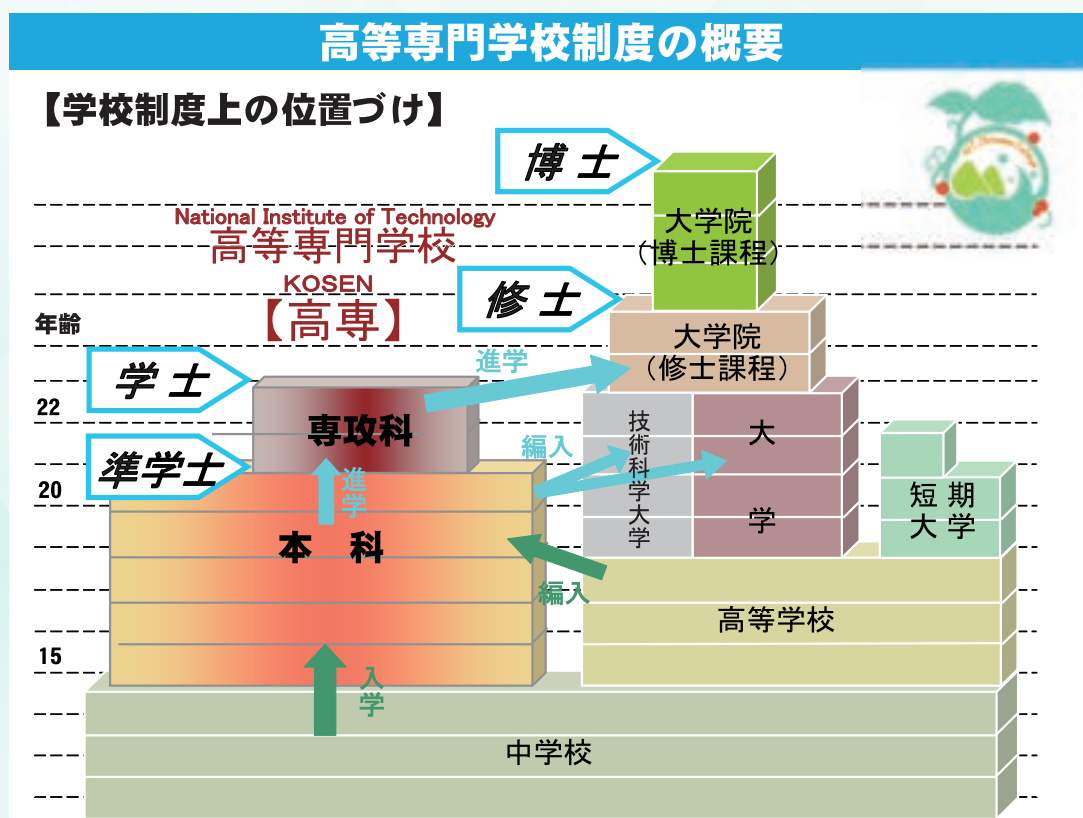
なお、平成16年4月1日より、当時の国立55校は、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立の高等専門学校となっています。

高等専門学校は、中学校卒業生を受け入れ、高等学校3年間と大学の2年間に相当する5年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

理論的な基礎とその上に立った実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育や少人数クラス編制でのきめ細かな教育による創造性あふれる実践的技術者の養成には、経済産業界から高い評価を得ています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。

また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職（就職率は例年90%以上）、大学3年次への編入学、専攻科への進学（大学評価・学位授与機構の審査に合格すると「学士」の学位が与えられます。）と多岐にわたっています。



- ・高校卒業生は、高専4年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は、大学3年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は高専の専攻科に進学する資格があります。
- ・専攻科では最新の科学知識と技術を更に深めたい学生のため、2年間のより高度な技術者教育を行います。修了して「学士」を得た者は大学院への入学資格があります。

組織

会議・委員会

◆ 運営会議

◆ 広報戦略会議

◆ いじめ対策委員会

◆ 総務委員会

◆ 図書館運営委員会

◆ 教務委員会

◆ 入学者選抜実施委員会

◆ FD・SD 実施委員会

◆ 学生委員会

◆ 学生寮委員会

◆ 安全衛生委員会

◆ 専攻科運営委員会

◆ 航空人材育成委員会

◆ 評価対応委員会

◆ 技術支援室運営委員会

◆ 知的財産委員会

◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会

◆ 動物実験委員会

◆ ヒト研究倫理審査委員会

◆ 男女共同参画推進委員会

◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会

◆ 職員レクリエーション委員会

◆ 20 周年記念事業委員会

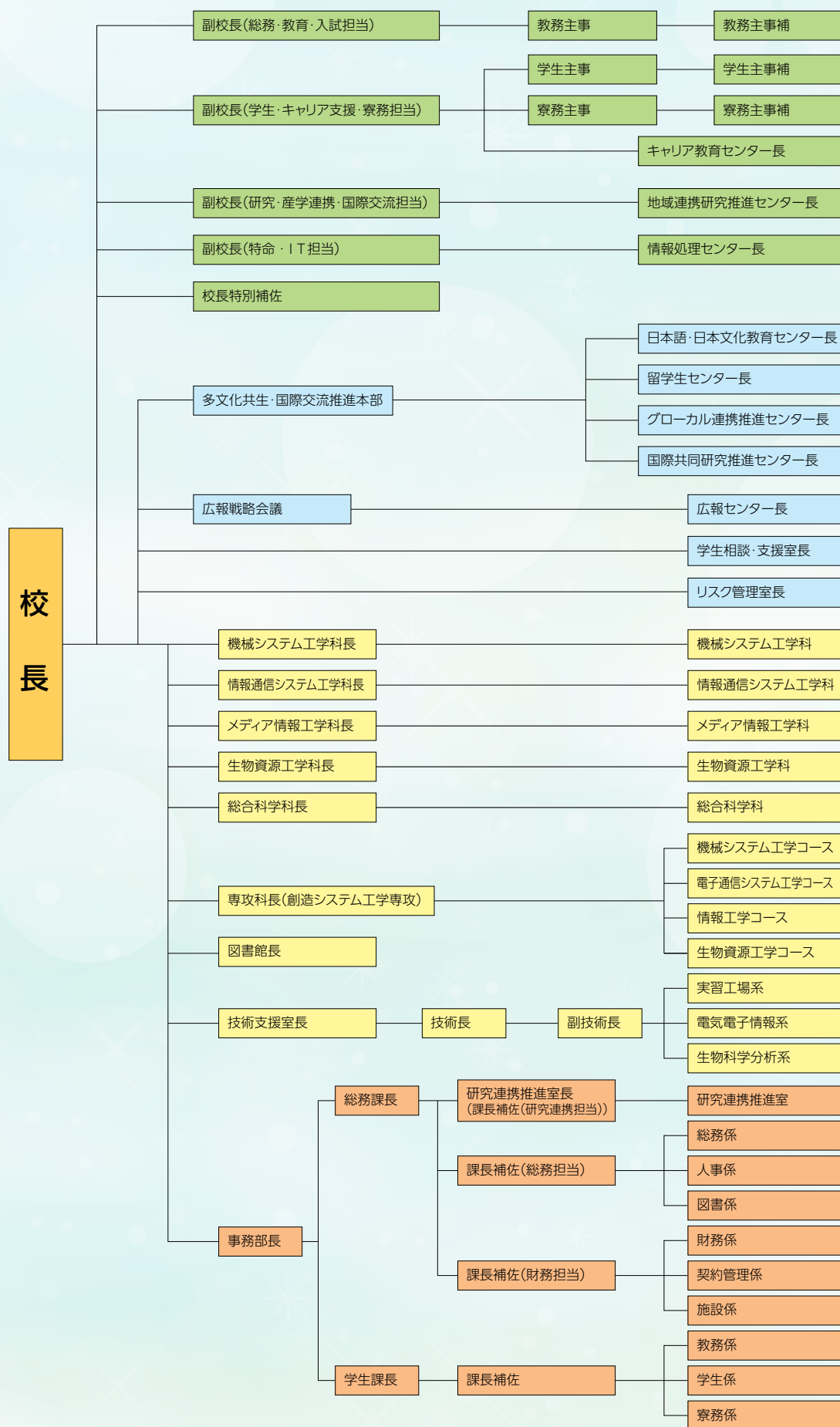
◆ 発注工事競争参加資格等審査委員会

◆ 情報セキュリティ管理委員会

事務部連絡先

係	電話番号	メールアドレス
総務課 研究連携推進室	0980-55-4070	skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
総務係	0980-55-4003	ssoumu@okinawa-ct.ac.jp
人事係	0980-55-4006	sjinji@okinawa-ct.ac.jp
図書係	0980-55-4037	stosyo@okinawa-ct.ac.jp
財務係	0980-55-4014	szaimu@okinawa-ct.ac.jp
契約管理係	0980-55-4020	skkanri@okinawa-ct.ac.jp
施設係	0980-55-4023	ssisetu@okinawa-ct.ac.jp
学生課 教務係	0980-55-4028	gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
学生係	0980-55-4032	ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
寮務係	0980-55-4039	gryoumu@okinawa-ct.ac.jp

組織図



役職員一覧

校長	佐藤 貴哉
副校長（総務・教育・入試担当）	眞喜志 治
副校長（学生・キャリア支援・寮務担当） 学生主事	神里 志穂子
副校長（研究・産学連携・国際交流担当）	伊東 昌章
副校長（特命・IT担当）	與那嶺 尚弘
教務主事	成田 誠
寮務主事	嶽本 あゆみ

校長特別補佐 （多文化共生・国際交流推進本部担当）	金城 伊智子
校長特別補佐 （同窓会・20周年事業担当）	安里 健太郎

機械システム工学科長	眞喜志 隆
情報通信システム工学科長	谷藤 正一
メディア情報工学科長	伊波 靖
生物資源工学科長	玉城 康智
総合科学科長	山本 寛
専攻科長	高良 秀彦
図書館長	小池 寿俊
技術支援室長	比嘉 吉一
広報センター長	山田 親稔

リスク管理室長	玉城 龍洋
学生相談・支援室長	兼城 千波
キャリア教育センター長	津村 卓也
地域連携研究推進センター長	武村 史朗
情報処理センター長	中平 勝也
日本語・日本文化教育センター長	玉城 梓
留学生センター長	タンスリヤボン スリヨン
グローバル連携推進センター長	バイティガ ザカリ
国際共同研究推進センター長	玉城 康智

事務職

事務部長 （併）学生課長	藤元 高德
総務課長	大城 光雄

技術職

副技術長・技術専門員	藏屋 英介
技術専門員	具志 孝
技術主査（実習工場系） 技術専門職員	大嶺 幸正
技術主査（電気電子情報系） 技術専門職員	比嘉 修
技術主査（生物科学分析系） 技術専門職員	渡邊 謙太

教職員数

令和4年5月1日現在

	校長	教授	准教授	講師	助教	教員計	事務系職員	技術職員	看護師	合計
現員	1	24	22	10	3	60	30	8	1	99

歴代校長

顔写真			
校長	初代	2代	3代
氏名	糸村 昌祐 (いとむら しょうすけ)	伊東 繁 (いとう しげる)	安藤 安則 (あんど うやすのり)
在任期間	平成14年10月1日 ～ 平成22年3月31日	平成22年4月1日 ～ 平成27年3月31日	平成27年4月1日 ～ 令和2年3月31日
顔写真			
校長	4代	5代	
氏名	伊原 博隆 (いはら ひろたか)	佐藤 貴哉 (さとう たかや)	
在任期間	令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日	令和4年4月1日 ～ ～	

名誉教授

元職	氏名	授与年月日	元職	氏名	授与年月日
校長	糸村 昌祐	平成26年9月	教授	知念 幸勇	平成29年5月
教授	松栄 準治	平成26年9月	教授	宮田 恵守	令和元年5月
教授	真鍋 幸男	平成26年9月	教授	網谷 厚子	令和元年5月
教授	高木 茂	平成26年9月	校長	安藤 安則	令和2年4月
校長	伊東 繁	平成27年5月	教授	姉崎 隆	令和2年4月
教授	角田 正豊	平成29年5月	教授	三枝 隆裕	令和2年4月
教授	鈴木 龍司	平成29年5月	教授	正木 忠勝	令和2年4月
教授	新川 智清	平成29年5月	校長	伊原 博隆	令和4年4月

教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

教育目標

本科

本科教育目標

1. 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2. 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3. 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4. 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

<各学科の人材育成上の目的及び教育目標>

【機械システム工学科】

人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. 材料・加工学等の要素技術やC A D・C A M・C A E等のコンピュータを使用した生産技術力
3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

教育目標

1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要な通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】

人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【生物資源工学科】

人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

専 攻 科

専攻科教育目標

1. 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2. 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3. 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4. 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

三つの方針

本科

<アドミッションポリシー>

本科のディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

- (1) 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- (2) 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
- (3) 規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

・帰国子女特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

<カリキュラムポリシー>

本科では以下の科目を配置し、専門的基礎力、コミュニケーション力、倫理観、自己研鑽力を育成する

- (1) 各専門分野の基礎的な知識を学び、かつそれらを応用する科目：各学科専門科目、総合科学科科目
- (2) 各専門科目の技術を修得する科目：専門学科実験実習科目：卒業研究
- (3) 共同で問題解決にあたりコミュニケーション力を修得する科目：専門学科実験実習科目
- (4) 継続的に学習していく能力を養う科目：卒業研究

<ディプロマポリシー>

本科では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

- (1) 理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する
- (2) コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる
- (4) 継続的に自己研鑽できる

機械システム工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) 機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
- (2) 機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人
- (3) 機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など
[本科教育目標：1] [学科教育目標：1]
- (2) 機械システムの知識を習得する科目：物理と数学を基礎とするいわゆる四大力学（材料力学、流体力学、機械力学、熱力学）と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目（電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など）
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1、3、4]
- (3) 機械システムの技術を修得する科目：実践的な機械システム工学実験、材料加工システム（工作実習）、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3、4]
- (4) 課題解決能力を育成する科目：課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、正しい倫理観を養う技術者倫理など
[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる
[本科教育目標：1、2、3] [学科教育目標：1～4]
- (2) 課題の本質を理解し、論理的に思考できる [本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1、3]
- (3) 他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる [本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1～4]
- (4) 倫理観・責任感を持って課題に取り組むことができる [本科教育目標：1、4] [学科教育目標：1]
- (5) 自身の成長のため、自己研鑽できる [本科教育目標：3、4] [学科教育目標：1～4]

情報通信システム工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- (2) 携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人
- (3) 情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] [学科教育目標：1]
- (2) 工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1～4]
- (3) 問題や課題に対して、個人またはグループで自主的、計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1]
- (4) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1]
- (5) 技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。[本科教育目標：4] [学科教育目標：1]
- (6) 実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。
[本科教育目標：1～4] [学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 工学の基礎知識を身につけ、それらを応用することができる。
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1～4]
- (2) 課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的、計画的に物事を進めて解決に導くことができる。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1]
- (3) 論理的な思考力、記述力およびコミュニケーション基礎能力を身につけ、発表・討議することができる。
[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1]
- (4) 技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉えることができる。
[本科教育目標：4] [学科教育目標：1]
- (5) 実践的・創造的技術者として自立する意識および職業選択を自主的に行える能力を身につけ、社会と産業の発展に果敢に取り組むことができる。[本科教育目標：1～4] [学科教育目標：1～4]

メディア情報工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- (2) コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- (3) コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] [学科教育目標：1]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群：プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、OS とコンパイラ、ディジタル回路、ディジタルシステム設計など。
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3]
- (3) ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群：通信工学、情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3]
- (4) データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群：メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3、4]
- (5) 課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的能力を育成するための科目群：各種実験、卒業研究など。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60 点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力。
[本科教育目標：1] [学科教育目標：1、4]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3]
- (3) モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力。
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2、3]
- (4) 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力。
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1、4]
- (5) 課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的能力。[本科教育目標：1、2、3] [学科教育目標：1～4]

生物資源工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- (2) 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
- (3) バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] [学科教育目標：1]
- (2) 生物工学の基礎科目：情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学Ⅰ、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学Ⅱ、タンパク質工学、産業化学など。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2～4]
- (3) 技術習得に関する科目：実践的な生化学実験、遺伝子工学実験、生物工学実験、微生物学実験、環境学実験、生理学実験、化学および化学実験法など。[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：2～4]
- (4) 課題解決能力・コミュニケーション力育成科目：沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など。
[本科教育目標：1～4] [学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身に付けた者に卒業を認定する

- (1) 亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学・微生物学に関する基礎知識および専門知識を持ち、生物資源の効用や利用方法を探索できる創造的・実践的な研究・開発の技術力を有する。
[本科教育目標：1、3] [学科教育目標：1～4]
- (2) アジア圏と接近している地理的条件を活かして国際交流をはかり、相手の考えを受け入れると共に自分の考えも主張し、到達点を決め、それに向かって協力していけるチームワーク力やコミュニケーション力を有する。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：1]
- (3) 習得した専門知識を基礎として、仕事をするために必要な情報は何か、それらをどのように組み合わせれば効率的に仕事が行えるかの思考力を有する。[本科教育目標：2、4] [学科教育目標：3、4]
- (4) 困難に遭遇した際に、自分の現状を把握し、どこが問題で、どうしたら解決できるのか、どのような助力を求めればよいのかを明確にする論理的思考とそれらを他者へ説明するコミュニケーション力を有する。
[本科教育目標：2、3、4] [学科教育目標：1]
- (5) バイオ、化学、環境、医薬・食品系産業などで活躍できる人材であり、社会ニーズに応えることができ、国際性を備えた技術者としての能力を有する。[本科教育目標：2、3、4] [学科教育目標：3、4]

専攻科

<アドミッションポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

- （１）技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- （２）専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- （３）基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- （４）新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- （５）複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の３つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、小論文と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を実施する。

・社会人特別選抜

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

<カリキュラムポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、基本科目として以下に対応した科目を設ける

- （１）専門科目の応用力を身につける
- （２）知識を融合・複合する力を身につける
- （３）他者と協働できるコミュニケーション力を身につける
- （４）グローバルな視点で物事を見る力を身につける

<ディプロマポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

- （１）深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用することができる
- （２）論理的に物事を考え、表現することができる
- （３）倫理観を持ち、他者と協働することができる
- （４）グローバルな視点で、多面的に物事を捉えることができる

機械システム工学科

機械工学は、コンピュータ部品のようなマイクロな世界からロボット・自動車・航空宇宙まであらゆる産業のもののづくりの中心となる重要な学問分野です。これら先端技術の各分野で多くの機械工学技術者が、設計・開発・研究・製造の分野で活躍しています。

本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指しています。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、材料と加工を中心とした材料システム群、設計と力学を中心とした設計システム群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・工作実習・工学実験などの自己学習を重視した教育を行います。

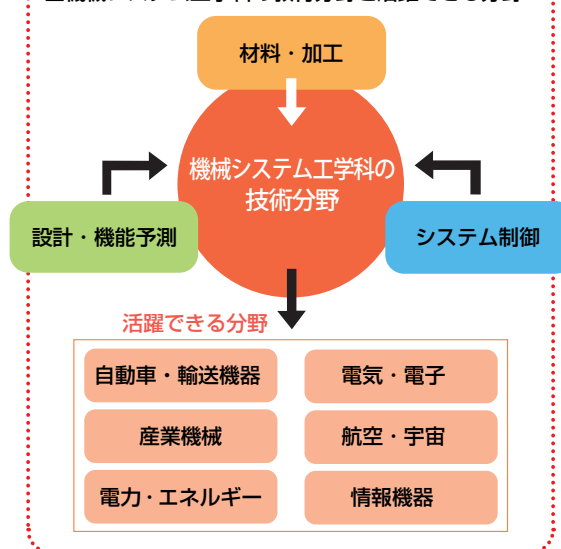


創造演習（2年）



創造システム工学実験（専攻科）

■機械システム工学科の教育分野と活躍できる分野



■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（工学）	武村 史朗	専門分野：ロボティクス、制御工学 1. 海中ロボットの操作に関する研究 2. ロボット技術を利用した地域課題への応用
教授	博士（工学）	比嘉 吉一	専門分野：材料力学、計算固体力学、マルチフィジックス 1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究 2. マルチフィジックス現象に関連した数値シミュレーションに関する研究 3. 金属結晶欠陥場の3次元可視化に関する研究
教授	博士（工学）	眞喜志 治	専門分野：熱工学 1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究 2. マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究
教授	博士（工学）	眞喜志 隆	専門分野：表面改質、機械材料 1. 金属材料の表面改質に関する研究 2. 表面改質と疲労強度に関する研究
教授	博士（工学）	山城 光	専門分野：熱工学、熱流体計測工学 1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究 2. 炭素繊維触媒界面における有機液滴の熱化学的相互作用に関する研究 3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構
准教授	博士（工学）	安里 健太郎	専門分野：制御工学、ロボasts制御、ソフトコンピューティング 1. 介護・看護に関するサポート機器の研究開発 2. 論理的思考力育成を目指した科学技術教材の研究開発 3. システムの低次元化に関する研究
准教授	博士（工学）	下嶋 賢	専門分野：加工学、計測工学 1. 機械システムの高精度化 2. 加工現象の解析
准教授	博士（工学）	津村 卓也	専門分野：溶接・接合、プラズマ処理・レーザ加工・表面処理 1. 摩擦発熱を利用した金属材料の各種固相接合法に関する研究 2. 新素材・異種材料の溶接・接合に関する研究 3. 各種熱源による金属材料の表面処理および切断に関する研究
准教授	博士（工学）	鳥羽 弘康	専門分野：生産管理、生産制御、生産計画 1. 生産計画立案支援シミュレーション・生産工程スケジューリングの研究 2. システムシミュレーションによる大規模システムの挙動予測、性能予測の研究
准教授	博士（工学）	政木 清孝	専門分野：材料強度、疲労、フラクトグラフィ、CT 1. 機械構造部材の疲労信頼性評価に関する研究 2. 表面処理による疲労特性向上に関する研究
講師	博士（工学）	森澤 征一郎	専門分野：数値流体力学、航空力学、データマイニング、多目的最適化 1. 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究 2. Roadble Aircraftの概念設計とその実現可能性の検討 3. データ探査や最適化の技術開発とその応用に関する研究

機械システム工学科 教育課程

授 業 科 目			単位数	区 分	学年別配当										備 考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	専門基礎工学	2	講義	2	半									
		プログラミングⅠ	2	講義・演習			2	通							
		応用数学Ⅰ	2	講義						2	半			学修単位	
		応用数学Ⅱ	2	講義							2	半		学修単位	
		応用物理	2	講義				2	通						
		機械力学Ⅰ	2	講義						2	半			学修単位	
		機械力学Ⅱ	1	講義・演習						1	半				
	材料システム群	材料加工システムⅠ	3	実習	3	通									
		材料加工システムⅡ	4	実習			4	通							
		材料加工システムⅢ	2	実習					2	半					
		機械工作法	1	講義					1	半					
		機械材料	2	講義			2	通							
		C A D・CAMⅠ	2	演習					2	通					
		C A D・CAMⅡ	2	演習							2	半		学修単位	
		材料科学	2	講義							2	半		学修単位	
	設計システム群	機械製図基礎学	2	講義・実習	2	通									
		機械製図学	2	講義・実習			2	通							
		機械設計学	1	講義・実習					1	半					
		材料力学設計Ⅰ	2	講義・実習					2	通					
		材料力学設計Ⅱ	2	講義・演習							2	半		学修単位	
		総合構造設計	2	講義・演習							2	通			
		熱工学Ⅰ	2	講義							2	半		学修単位	
		熱工学Ⅱ	1	講義・演習							1	半			
		流体工学	2	講義							2	通			
		熱流体機器	2	講義									2	半	学修単位
	システム制御群	電気・電子工学	2	講義					2	通					
		制御工学	2	講義							2	半		学修単位	
		メカトロニクス工学	3	講義・演習									3	通	学修単位
		計測工学	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	産業創造セミナー	1	講義・演習					1	半					
		機械システム工学実験Ⅰ	3	実験							3	通			
		機械システム工学実験Ⅱ	3	実験									3	通	
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修 得 単 位 計			83		12		12		13		26		20	
選択	基礎科目群	プログラミングⅡ	2	講義・演習					2	通					
		化学Ⅱ	2	講義					2	通					
	材料システム群	C A E	2	講義								2	半	学修単位	
	設計システム群	エネルギー変換工学	2	講義								2	半	学修単位	
	システム制御群	生産工学	2	講義									2	半	学修単位
		システム制御論	2	講義									2	半	学修単位
		知能制御論	2	講義									2	半	学修単位
	共通群	創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習				2	通						航空技術者プログラム履修者に限る
		航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通					航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅰ	2	講義・演習							2	通			航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅱ	2	講義・演習									2	通	航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習									4	通	航空技術者プログラム履修者に限る
	開 設 単 位 計			31		1		3		7		3		17	
	修 得 単 位 計			6		0		0		2		0		4	
	開 設 単 位 合 計			114		13		15		20		29		37	
	修 得 単 位 合 計			89		12		12		15		26		24	

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

情報通信システム工学科

タブレット PC、インターネット、スマートフォンや携帯端末などの情報通信技術の急速な進歩、普及は社会に大きな影響を与えています。この情報通信技術を支えているのが、コンピュータ、ネットワーク、通信、制御、半導体集積回路などの技術を修得したハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的創造的技術者です。

本学科では、情報通信分野で活躍できる実践的創造的技術者の育成を目指し、次の技術分野の基礎を学びます。

- (1) コンピュータアーキテクチャ (2) プログラミング (3) 集積回路 (4) 信号処理 (5) 光・無線通信技術 (6) ネットワーク (7) オペレーティングシステム (8) アルゴリズムとデータ構造 (9) 組込みシステム

情報通信分野における実践的創造的技術者の育成 (ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者を目指す)



情報通信工学実験の授業



計算機工学の授業



創造演習の授業



電波暗室での通信実験（専攻科）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（工学）	兼城 千波	専門分野：半導体工学、電子工学、弾性波工学 1. 弾性波－半導体結合素子・複合機能素子に関する研究 2. 半導体・圧電センサに関する研究 3. マイクロスプリングブロープの開発研究（MEMS技術）
教授	博士（工学）	神里 志穂子	専門分野：感性工学、運動計測、データ解析 1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築 2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究
教授	博士（工学）	金城 伊智子	専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報 1. 意思決定支援システムの構築 2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究
教授	博士（工学）	高良 秀彦	専門分野：光通信、光計測 1. 光通信システムに関する研究 2. 光通信品質測定技術、レーザー光安全に関する研究
教授	博士（工学）	谷藤 正一	専門分野：マイクロ波・ミリ波工学、無線通信工学 1. 高周波 Si-CMOS RF デバイスの研究 2. 3D-SiP 技術を用いた小形・高密度RFモジュールの研究 3. 水中可視光通信の研究
教授	博士（工学）	山田 親稔	専門分野：計算機工学、論理設計、形式的設計検証 1. システムLSI 設計・機能検証に関する研究 2. LSI 設計教育に関する研究
准教授	博士（情報科学）	中平 勝也	専門分野：無線通信工学、情報工学 1. 衛星やドローンなどを用いた各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究 2. ヘテロジニアス無線ネットワーク環境下における干渉低減方式に関する研究 3. 電波環境やトラフィックの変動に応じた無線リソースの適応制御に関する研究
講師	博士（工学）	宮城 桂	専門分野：計算機工学、VLSI 設計 1. 省電力 VLSI の実現法に関する研究 2. ディベンダプルVLSIの実現法に関する研究
助教	博士（工学）	亀濱 博紀	専門分野：半導体工学、電子集積回路 1. SOI 技術を用いたX線検出器の開発 2. IoT を活用した高生産性 3. IoT を活用したセンシングシステムの開発

■ 情報通信システム工学科 教育課程

授業科目			単位数	区 分	学年別配当										備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年		5 年			
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間		
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半										
		情報技術の基礎	3	講義	3	通										
		創造演習	2	演習			2	通								
		インターンシップ	3	実習							3	通				
	基礎科目群	離散数学	2	講義									2	半		学修単位
		応用数学	2	講義							2	半				学修単位
		応用物理	2	講義							2	半				学修単位
		情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半										
		情報通信工学実験Ⅰ	2	実験			2	通								
		情報通信工学実験Ⅱ	2	実験					2	通						
		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験							2	通				
		計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通										
		計算機工学Ⅱ	2	講義			2	通								
		ソフトウェア演習	1	演習	1	半										
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通						
		プログラミング基礎Ⅰ	2	講義	2	通										
		プログラミング基礎Ⅱ	2	講義			2	通								
		応用プログラミングⅠ	4	演習							4	通				学修単位
		応用プログラミングⅡ	4	演習									4	通		学修単位
		データベース	2	講義									2	半		学修単位
		電気回路Ⅰ	2	講義			2	通								
		電気回路Ⅱ	2	講義					2	通						
		電磁気学Ⅰ	2	講義							2	半				学修単位
	情報通信工学群	ネットワーク概論	2	講義			2	通								
		信号処理	2	講義							2	半				学修単位
		情報理論	2	講義									2	半		学修単位
		通信工学Ⅰ	2	講義							2	半				学修単位
		通信工学Ⅱ	2	講義									2	半		学修単位
	電子・集積回路工学群	半導体工学	1	講義					1	半						
		電子回路Ⅰ	2	講義					2	通						
		電子回路Ⅱ	2	講義					2	通						
		電子回路演習	2	演習							2	通				学修単位
		集積回路工学	4	講義									4	通		学修単位
	計算機ソフトウェア群	計測工学	2	講義					2	通						
		制御工学Ⅰ	2	講義							2	半				学修単位
		オペレーティングシステム	2	講義					2	通						
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通						
	共通群	卒業研究	8	実験									8	通		
	修 得 単 位 計		88			12		12		17		23		24		
選択	基礎科目群	化学Ⅱ	2	講義							2	半				学修単位
		電磁気学Ⅱ	2	講義									2	半		学修単位
	情報通信工学群	情報通信総合演習	2	演習							2	通				学修単位
		電波電送学	2	講義									2	半		学修単位
		通信法規	1	講義									1	半		学修単位
	計算機ソフトウェア群	人工知能	2	講義							2	半				学修単位
		制御工学Ⅱ	2	講義							2	半				学修単位
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通						
		創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通		*各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通								航空技術者プログラム履修者に限る
		航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通						航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅰ	2	講義・演習							2	通				航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅱ	2	講義・演習									2	通		航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	4	実習									4	通		航空技術者プログラム履修者に限る
	開 設 単 位 計		32			1		3		5		11		12		
	修 得 単 位 計		1			0		0		0		1		0		
	開 設 単 位 合 計		120			13		15		22		34		36		
	修 得 単 位 合 計		89			12		12		17		24		24		

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。（詳細は別に定める）

※ 修得単位に関して、学修単位数が60単位を超える場合には担任へ相談すること。

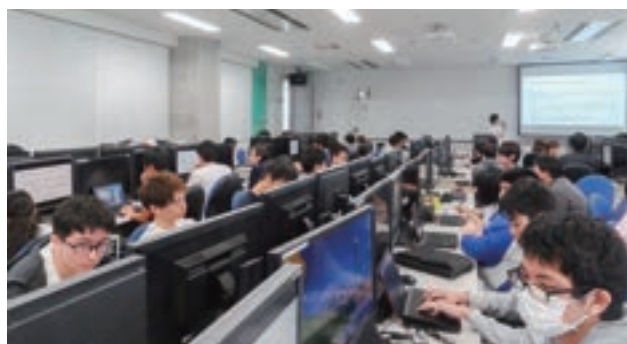
メディア情報工学科

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって大切な要素です。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術と通信技術の発展と融合のおかげで、情報のデジタル化を通して異なるメディアを統合的に扱うこと、そして、膨大な情報を世界規模で伝達共有することが可能になりました。本学科では、マルチメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行います。

- (1) 情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作教育
- (2) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育
- (3) 世界規模で動作するインターネットの仕組みやセキュリティ及びブロードバンドでユビキタスな通信技術に関する教育



専門科目の授業風景



専門科目の授業風景

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	修士（工学）	伊波 靖	専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理 1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定 2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス 3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス
教授	博士（学術）	玉城 龍洋	専門分野：交通工学、社会科学、進化的計算、プログラミング教育 1. 交通流および交通ネットワークの解析 2. 歩行者行動モデルの開発 3. プログラミング教育手法の開発
教授	博士（工学）	タンスリヤボン スリヨン	専門分野：画像処理・認識・圧縮、デジタル信号処理 1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発 2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究 3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究
教授	修士（工学）	與那嶺 尚弘	専門分野：計算機工学、工学教育、福祉工学 1. 失語症患者および発達障害児向け言語機能訓練支援システムの構築 2. リハビリテーションおよび学習時における集中度の測定に関する研究 3. ネットワークを用いた学習支援システムの開発
准教授	博士（知識科学）	佐藤 尚	専門分野：複雑系、人工生命、人工知能、進化的言語学、進化論的計算 1. 生命・認知・言語・社会・経済などの自律的に発展/進化する「複雑系」に関する構成論的研究 2. 「複雑系」における創発現象の解析
准教授	博士（工学）	鈴木 大作	専門分野：情報工学、ソフトウェア工学 1. 組み込みソフトウェア技術、開発手法、開発管理 2. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントに関する研究 3. モバイルインターネットアクセス技術に関する研究・開発
准教授	博士（家政学）	西村 篤	専門分野：サウンドスケープデザイン、メディアコンテンツ、教育福祉 1. サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性に関する理論構築 2. メディアコンテンツ制作とその社会的応用における対話的手法の開発 3. スクールソーシャルワークにおけるセルフアドボカシーの支援
准教授	博士（工学）	バイティガ ザカリ	専門分野：ロボット工学・画像処理・ゼータ関数 1. 複数のセンサーに基づくロボットの開発 2. GPSを用いた移動ロボットに関する研究 3. ロボットビジョンに関する研究 4. 解析関数の複素積分の適用
講師	博士（工学）	金城 篤史	専門分野：情報工学、情報システム、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、海洋音響学 1. 情報システムの構築・管理・運用に関する研究 2. 情報工学の農業や水産への応用 3. 複数センサーによるセンシング技術の開発に関する研究
助教	修士（理学）	當間 栄作	専門分野：画像処理、画像解析、ソフトコンピューティング 1. 眼底画像解析システムの開発に関する研究 2. 眼底動画像からの動脈硬化診断に関する研究

メディア情報工学科 教育課程

授 業 科 目			単位数	区 分	学年別配当										備 考
					1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	離散数学	2	講義					2	通					学修単位
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位
		応用物理	2	講義					2	通					学修単位
		情報理論	2	講義						2	半				学修単位
		プログラミングⅠ	3	講義	3	通									
		メディア情報工学セミナー	1	講義	1	半									
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通					
	Ⅰ 群	メディアコンテンツ基礎	3	講義・演習	3	通									
		メディア情報工学実験Ⅰ	4	実験			4	通							
		コンピュータグラフィックスⅠ	2	講義						2	半				学修単位
		コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義								2	半		学修単位
		コンピュータグラフィックスⅢ	2	講義								2	半		学修単位
		メディア情報工学実験Ⅱ	2	実験					2	通					
	Ⅱ 群	プログラミングⅡ	4	講義			4	通							
		プログラミングⅢ	2	実験					2	通					
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通					
		メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験						2	通				
		オブジェクト指向言語	2	講義						2	半				学修単位
		OSとコンパイラⅠ	2	講義						2	半				学修単位
		OSとコンパイラⅡ	2	講義								2	半		学修単位
		データベース	2	講義								2	半		学修単位
	Ⅲ 群	デジタル回路	2	講義			2	通							
		メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通					
		デジタルシステム設計	2	講義						2	半				学修単位
	Ⅳ 群	通信工学	2	講義					2	通					
		情報セキュリティⅠ	2	講義								2	半		学修単位
		情報セキュリティⅡ	4	講義								4	半		学修単位
		コンピュータネットワークⅠ	2	講義					2	通					
		コンピュータネットワークⅡ	2	講義							2	半			学修単位
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		卒業研究	8	実験								8	通		
	修 得 単 位 計		85			12		12		18		21		22	
選択	Ⅰ～Ⅳ群	メディアコンテンツ応用	2	講義								2	半	学修単位	
		組み込みソフトウェア	2	講義								2	半	学修単位	
		信号処理とメディア通信	2	講義								2	半	学修単位	
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通							航空技術者プログラム履修者に限る
		航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通					航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅰ	2	講義・演習						2	通				航空技術者プログラム履修者に限る
		航空機技術Ⅱ	2	講義・演習								2	通		航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	4	実習								4	通		航空技術者プログラム履修者に限る
	開 設 単 位 計		23			1		3		3		3		13	
修 得 単 位 計		4			0		0		0		0		4		
開 設 単 位 合 計		108			13		15		21		24		35		
修 得 単 位 合 計		89			12		12		18		21		26		

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

※ Ⅰ群：メディア・コンテンツ群、Ⅱ群：ソフトウェア群、Ⅲ群：ハードウェア群、Ⅳ群：ネットワーク群

生物資源工学科

沖縄工業高等専門学校の立地条件の特長の一つは、海洋性に恵まれた亜熱帯性気候です。本学科では、これら亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用ができ、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指します。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行ないます。

専門分野の授業科目は（１）生物化学工学群、（２）環境・微生物学群、（３）食品化学工学群の３群を軸に編成されています。

- （１）生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実します。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養います。
- （２）環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学びます。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得します。
- （３）食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学びます。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模の食品製造の実践的能力を養います。



オープンキャンパス（名護：沖縄高専）



留学生との交流（タイ：シーナカリンウイロート大学）



学会発表（新潟：長岡技科大）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（医学）	池松 真也	専門分野：生化学、がんの生物学、診断薬開発 1. 乳酸菌を応用・利用した商品の開発 2. 新規な成長因子“ミッドカイン”の医薬分野への応用 3. iPS細胞を利用した医療スクリーニング系の開発
教授	博士（学術）	伊東 昌章	専門分野：タンパク質工学、酵素化学 1. 有用酵素の探索、機能解析、および応用に関する研究 2. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究
教授	博士（学術）	平良 淳誠	専門分野：生物有機化学、生物資源化学、酸化ストレスの生命科学 1. 生物資源の探索と機能性機構解明に関する研究 2. 生物資源の薬用食品、薬用化粧品の利用に関する研究
教授	博士（農学）	玉城 康智	専門分野：発酵学、微生物学 1. 泡盛に関する研究全般への対応と研究成果の商品化 2. 微生物を利用した有用成分の生産とその利用に関する研究
教授	博士（工学）	濱田 泰輔	専門分野：物理化学、光化学、有機化学 1. 色素増感型太陽電池の研究 2. 超臨界流体抽出に関する研究
准教授	博士（理学）	磯村 尚子	専門分野：分子生態学、繁殖生態学 1. 海洋生物における繁殖様式と集団維持・進化の関係性の解明 2. 海洋生物における遺伝的集団構造の解明
准教授	博士（農学）	三宮 一幸	専門分野：植物分子生物学 1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発 2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発
准教授	博士（理学）	嶽本 あゆみ	専門分野：食品加工学 1. 衝撃波を利用した食品加工技術の開発 2. 衝撃波処理による非加熱殺菌技術の開発
准教授	博士（農学）	田邊 俊朗	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索 2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発
准教授	博士（工学）	沖田 紀子	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. 微生物群集解析によるメタン漏洩の検知に関する研究 2. PCB分解菌の育種
准教授	博士（保健学）	河本 絵美	専門分野：運動生理学、栄養生化学 1. 代謝を制御する栄養因子の探索と応用に関する研究 2. 不活動が2型糖尿病を誘発するメカニズムの解明とその防止法の検討 3. 食品の機能評価
助教	博士（理学）	萩野 航	専門分野：系統分類学、生態学、環境学 1. 東南アジア地域における土壌動物相の多様性解明および環境指標生物の探索 2. ササラダニ類の記載分類学およびDNAバーコーディング

■ 生物資源工学科 教育課程

授 業 科 目			単位数	区 分	学年別配当										備 考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	基礎科学	2	講義	2	半									
		応用物理	2	講義					2	通					
		応用数学	2	講義							2	半			学修単位
		基礎プログラミング	2	講義	2	通									
		情報技術の応用	2	講義					2	通					
	生物化学工学群	有機化学Ⅰ	2	講義			2	通							
		物理化学基礎	2	講義			2	通							
		生物分析化学	2	講義・実習			2	通							
		有機化学Ⅱ	2	講義					2	通					
		生化学	3	講義					3	通					
		生化学実験	1	実験					1	通					
		遺伝子工学	2	講義							2	半			学修単位
		遺伝子工学実験	2	実験							2	半			学修単位
		生物工学	2	講義							2	半			学修単位
		生物工学実験	2	実験							2	半			学修単位
	環境・微生物学群	微生物学	3	講義			3	通							
		微生物学実験	1	実験			1	通							
		発酵学	2	講義・実習					2	半					
		環境学	1	演習					1	半					
		環境学実験	2	実験					2	半					
		環境分析学	2	講義・演習							2	半			学修単位
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		生理学	2	講義							2	半			学修単位
		生理学実験	2	実験							2	半			学修単位
		食品プロセス工学	4	講義									4	通	学修単位
		食品製造学	2	講義・実験									2	通	
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通									
		化学および化学実験法	2	実験					2	半					
		化学資格基礎	2	講義					2	通					
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修 得 単 位 計			81		13		12		19		23		14	
選択	生物化学工学群	分子生物学	2	講義								2	半	学修単位	
		細胞工学	2	講義								2	通		
	環境・微生物学群	環境保全学	2	講義							2	半		学修単位	
		植物生理学	2	講義							2	半		学修単位	
		資源リサイクル学	2	講義								2	半	学修単位	
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験								2	半	学修単位	
		タンパク質工学	2	講義								2	通		
	共通群	産業化学	2	講義								2	通		
		創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通						航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通				航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空機技術Ⅰ	2	講義・演習							2	通		航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空機技術Ⅱ	2	講義・演習								2	通	航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空実習	5	実習								4	通	航空技術者プログラム履修者に限る	
	開 設 単 位 計			33		1		3		3		7		19	
	修 得 単 位 計			8		0		0		0		2		6	
開 設 単 位 合 計			114		14		15		22		30		33		
修 得 単 位 合 計			89		13		12		19		25		20		

(注1) 4年生の選択科目は、環境・微生物学群から2単位以上修得すること。

(注2) 5年生の選択科目は、生物化学工学群、環境・微生物学群、食品化学工学群、共通群から6単位以上修得すること。

◎ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

総合科学科

総合科学科では、5年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や教養を身につけます。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、5年間を通しての効果的なカリキュラムを編成します。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では高度な英語力を養うために、「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎技能の鍛錬から始まり、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力の伸長を図ります。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論を追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。



国語Ⅰの授業風景



英語の授業風景Ⅰ



英語の授業風景Ⅱ



数学の授業風景

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（理学）	小池 寿俊	環論
教授	博士（理学）	成田 誠	一般相対論、非線型偏微分方程式
教授	修士（文学）	星野 恵里子	イギリス・アイルランド文学
教授	博士（理学）	山本 寛	複素解析学
准教授	博士（学術）	青木 久美	哲学、心理学
准教授	博士（理学）	木村 和雄	地理学、地形学
准教授	博士（文学）	澤井 万七美	芸能史、演劇学
准教授	博士（文学）	下郡 剛	日本中世史、近世琉球史、古文書学
准教授	博士（理学）	吉居 啓輔	数学基礎論
准教授	修士（体育学）	和多野 大	スポーツ心理学、スポーツ科学
講師	修士（文学）	片山 鮎子	日本語学（中世）
講師	修士（社会学）	カーマン マコア クイオカラニ	家族学
講師	博士（言語学）	崎原 正志	言語学、琉球語学、日本語学
講師	修士（スポーツ学）	島尻 真理子	スポーツ科学、コーチング、ハンドボール
講師	修士（理学）	松露 真	数学基礎論
講師	修士（人類学）	山内 祥之	文化人類学
講師	修士（カウンセリング学）	吉井 りさ	日英スピーチ・プレゼンテーション教授法

■ 総合科学科 教育課程

授 業 科 目			単位数	区 分	学年別配当										備 考	
					1 年		2 年		3 年		4 年		5 年			
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間		
必修	国語	国語Ⅰ	2	講義	2	通										
		国語Ⅱ	2	講義			2	通								
		国語Ⅲ	2	講義					2	通						
		文学概論	2	講義							2	半			学修単位	
		日本語表現	2	講義							2	半			学修単位	
	英語	English ComprehensionⅠ	2	演習	2	通										
		English ComprehensionⅡ	2	演習			2	通								
		English ComprehensionⅢ	2	演習					2	通						
		English ComprehensionⅣ	2	演習							2	半			学修単位	
		English CommunicationⅠ	1	演習	1	半										
		English CommunicationⅡ	1	演習			1	半								
		English SkillsⅠ	2	演習	2	通										
		English SkillsⅡ	2	演習			2	通								
		English SkillsⅢ	2	演習					2	通						
		English SkillsⅣ	2	演習							2	半			学修単位	
		English SkillsⅤ	2	演習									2	半	学修単位	
	科学技術英語	2	演習									2	半	学修単位		
	社会科学	歴史学概論	2	講義			2	通								
		地理学概論	2	講義					2	通						
		地域文化論	2	講義							2	半			学修単位	
		技術者倫理	2	講義									2	半	学修単位	
		現代社会	1	講義			1	半								
	数学	基礎数学Ⅰ	4	講義	4	通										
		基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通										
		微積分Ⅰ	4	講義			4	通								
		微積分Ⅱ	4	講義					4	通						
		線形代数	2	講義			2	通								
		確率・統計	2	講義							2	半			学修単位	
	自然科学	物理Ⅰ	2	講義	2	通										
		物理Ⅱ	2	講義			2	通								
		化学	2	講義・演習	2	通										
		生物と環境	2	講義			2	通							生物・環境分野	
		地球科学概論	2	講義							2	半			学修単位	
	健康科学	スポーツ実技Ⅰ	2	実技	2	通										
		スポーツ実技Ⅱ	2	実技			2	通								
		スポーツ実技Ⅲ	1	実技					1	半						
		健康科学	1	演習・講義					1	半						
	修 得 単 位 計			77		22		21		14		14		6		
選択	英語演習	2	演習							2	半			学修単位		
	生命科学	2	講義・実験							2	半			学修単位		
	スポーツ実技Ⅳ	2	実技							2	通					
	特許法・法学	2	講義							2	半			学修単位		
	日本語Ⅰ※	2	講義・演習					2	通					※外国人留学生科目		
	日本語Ⅱ※	2	講義・演習							2	半			※外国人留学生科目、学修単位		
	日本事情Ⅰ※	2	講義・演習					2	通					※外国人留学生科目		
	日本事情Ⅱ※	2	講義・演習							2	半			※外国人留学生科目、学修単位		
	開 設 単 位 計			8		0		0		0		8		0	本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない	
	修 得 単 位 計			2		0		0		0		2		0		
開 設 単 位 合 計			85		22		21		14		22		6			
修 得 単 位 合 計			79		22		21		14		16		6			

※ 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。（詳細は別に定める）

創造システム工学専攻

沖縄高専の専攻科は、教育理念、教育目的、育成する技術者像にもとづき、それぞれの学位申請区分となる専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学）において、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。本科との科目関連と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースから構成されています。この4コースの専門性を融合・複合するための実験科目や国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムを策定しています。授業で扱う内容には大学院修士課程と同等レベルの高い専門技術教育も含まれており、選択科目として所属コース以外の科目を履修することも可能であり、学生の希望に応じた幅広い分野の学修機会が得られます。また、課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育（Engineering Design Education）を実施していて、実際のプロジェクト遂行（PBL 教育）を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

【専攻科の入学定員・収容定員】

専攻科名	入学定員	収容定員
創造システム工学専攻	24	48

■ 創造システム工学専攻 教育課程

コース	種別	必修・ 選択の別	科 目 名	単位数	区分	学年別配当単位数				備 考
						1年		2年		
						前期	後期	前期	後期	
全コース	一般科目	必修	実用英語Ⅰ	2	講義	2				
			実用英語Ⅱ	2	講義			2		
	専門共通科目		特別研究ⅠA	3	実験	3				
			特別研究Ⅱ	8	実験			8		
			専攻科実験	4	実験			4		
			創造システム工学実験	4	実験	4				
	修 得 単 位 計			23		9		14		
	一般科目	選択	哲学・倫理学	2	講義				2	※1年又は2年で修得可
			日琉交流史	2	講義		2			
			地球科学特論	2	講義		2			
			琉球諸語入門	2	講義	2				
			英詩研究	2	講義		2			
			English Business Communication	2	講義			2		
			スポーツ科学特論	2	講義			2		
			創造システム工学セミナー一般	2	講義	2		2		
	修 得 単 位 計			4		4				
	専門共通科目	選択	特別研究ⅠB	3	実験		3			
			長期インターンシップ	4～12	実習	4～12				2年次選択可 1か月：4単位 2か月：8単位 3か月：12単位 3単位以上 修得すること
			物理学特論	2	講義		2			
			数学通論	2	講義	2				
			応用解析学	2	講義			2		
			応用物理特論	2	講義	2				
			物理化学	2	講義			2		
			バイオテクノロジー	2	講義		2			
			バイオマス利用工学	2	講義		2			
			品質・安全マネジメント特論	2	講義				2	
			経営工学	2	講義			2		
			グローバルインターンシップ	2	実習			2		1年次選択可
			創造システム工学セミナー専門	2～8	講義	2～8				2単位：30時間 4単位：60時間 6単位：90時間 8単位：120時間以上 ※連携企業・提携校で実施する講義
	修 得 単 位 計			15		15				
	修 得 単 位 計			42		42				
開 設 単 位 計			82		82					

種別	コース	必修・ 選択の別	科 目 名	単位数	区分	学年別配当単位数				備 考
						1 年		2 年		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	機械システム工学コース	選 択	材料学特論	2	講義	2				
			溶接・接合工学	2	講義			2		
			連続体力学	2	講義	2				
			材料強度学特論	2	講義			2		
			数値シミュレーションⅠ	2	講義		2			
			数値シミュレーションⅡ	2	講義			2		
			生産工学特論	2	講義		2			
			制御系構成論	2	講義		2			
			表面工学	2	講義				2	
			輸送現象論	2	講義	2				
			流体工学特論	2	講義	2				
			熱機関工学	2	講義	2				
	ロボット工学		2	講義				2		
	技術管理概論		2	講義				2		
	電子通信システム工学コース		シミュレーション工学	2	講義		2			
			数理計画法	2	講義		2			
			生体情報工学	2	講義			2		
			数値解析論	2	講義			2		
			信号処理特論	2	講義		2			
			アルゴリズム理論	2	講義				2	
			マイクロ波工学	2	講義	2				
			システムLSI設計工学	2	講義	2				
			光電子デバイス	2	講義	2				
			半導体物性工学	2	講義		2			
			弾性波工学	2	講義			2		
			電子機器工学	2	講義				2	
	情報工学コース		知能システム特論	2	講義			2		
			LSIプロセス工学	2	講義	2				
			情報数学	2	講義	2				
			メディアコンテンツ特論	2	講義		2			
			組込システム特論	2	講義	2				
			データ工学	2	講義		2			
			情報セキュリティ特論	2	講義			2		
			ソフトウェア開発特論	2	講義				2	
			計算機科学特論	2	講義	2				
			ロボティクス	2	講義			2		
			ヒューマンインタフェイス	2	講義			2		
			ネットワーク特論	2	講義		2			
	生物資源工学コース		システム制御工学	2	講義	2				
			画像処理特論	2	講義		2			
			デジタルフォレンジック	2	講義				2	
			プログラミング特論	2	講義			2		
			資源生物機能形態学	2	講義	2				
			分子生物学Ⅱ	2	講義	2				
			植物工学	2	講義				2	
			無機化学	2	講義		2			
代謝生化学		2	講義			2				
応用微生物学		2	講義	2						
酵素化学		2	講義	2						
醸造学		2	講義		2					
選 択	生物資源の機能性科学	2	講義			2				
	酸化ストレスの生命科学	2	講義		2					
	タンパク質資源利用学	2	講義			2				
	食品化学	2	講義		2					
選 択	食品機能学	2	講義			2				
	他コースの選択科目							6単位まで認める		
	航空工学Ⅰ	2	講義	2						
	航空工学Ⅱ	2	講義	2						
選 択	航空工学Ⅲ	2	講義			2				
	航空工学Ⅳ	2	講義				2			
	修 得 単 位 計			20	20					
	開 設 単 位 計			118	68		50			
修 得 単 位 計			62	62						
開 設 単 位 計			200	200						

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある

特色のある教育

航空技術者プログラム

沖縄県は「沖縄21世紀ビジョン」の中で、航空機整備事業（MRO事業）を中心とした『航空関連産業クラスターの形成』を重点戦略の一つとして掲げています。このMRO事業を支え、地域に根差す産業を構築するためには、エンジニアとしての素養を有する航空整備士の育成が必要となります。

本校の「航空技術者プログラム」は、これに対応できる人材を輩出することを目的として、各専門分野の知識・技術をベースとした航空整備士並びに航空技術者をを目指す人材を育成するために開設されました。この人材育成プログラムは、学科を問わず本科2年生から本科5年生までの4年間に渡る教育課程となっており、最初の2年間で航空機に関する基礎や沖縄県の航空事業や観光産業などの導入教育を第一線で活躍する担当者や本校の卒業生を講師として講義を実施し、後半の2年間ではANAからの出向の常勤講師による専門的な講義や、航空関連産業の現場でのインターンシップ実習を行います。これまでに協力機関より提供された教材も充実してきており、技術教育の面においても、その効果が期待されます。県内外の複数の協力機関と協働することにより、地域に貢献できる人材の輩出に務めています。



航空技術者プログラムの概略

教員（現員）

職名	出向元	氏名	担当授業
特命教授	ANA	大貫 龍哉	航空機技術Ⅰ、航空機技術Ⅱ、航空実習、インターンシップ



校舎内に設置されたターボファンエンジンおよびレドームエンジン（JTA様より寄贈）、レドーム（Peach Aviation様より寄贈）



実習の様子



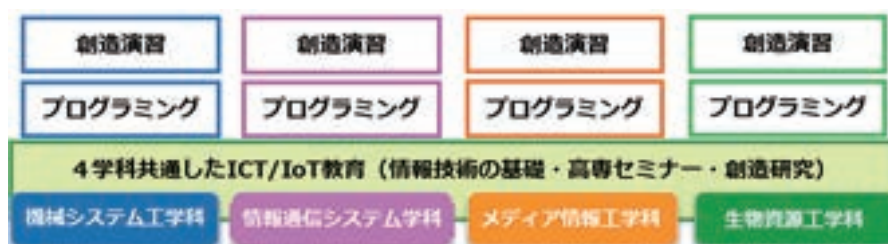
空港施設見学の様子

IoT教育事業

沖縄高専では、低学年で一般科目や専門科目はもちろんコンピュータの基礎技術・プログラミング・プレゼンテーションを全員が学びます。また、人材育成教育として、創造研究や高専セミナーなどの専門分野を横断した特色ある授業があります。本校の学生は、1人1台ノートパソコンを所有しており、変化する時代に活躍する技術者・研究者になるためにパソコンを活用したICT / IoT / AI教育が行われています。さらに、融合・複合を目指した分野横断型の技術者の育成を目的に、低学年から横串のIoT教育事業を進めています。昨年度からコンテストやフォーラムもオンラインで開催されており、学生達が積極的に参加しています。

実施目標

- ・1年生でのIoT学習：主に簡単なプログラミングやセンシング、などの基礎技術を学びそこから、アイデアを出していくことが出来るよう授業内容を組み込む。
- ・2年生でのIoT学習：学んだプログラミングやセンシングをもとに自分でアイデアした仕組みを構築する演習を取り入れる。
- ・3年生以上でのIoT学習：学習した内容を応用し、ユーザーのニーズ把握から機器のアイデア出し、プロトタイプ機器の開発などに発展するように創造研究などに取り入れる。



OIST: 第10回「サイエンス in 沖縄: 起業のための研究能力サイエンスフェア」2022年優勝: チーム名 沖縄高専・もすつくん（情報通信システム工学科3年生）

2021年度：ICT/IoT/AIを活用したコンテスト受賞実績

賞名(日本語)	タイトル(日本語)	授賞機関(日本語)
TOK企業賞	豊かな生活ライフを実現する「なんくるないカー」	全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト
優秀賞	ホイール・パフォーマンスメーター	信陵大学工学部 ORANGE CUP 2021
入賞	ダイビングサポートグラス	信陵大学工学部 ORANGE CUP 2021
アイデア賞	ベースサポートサンダラス	信陵大学工学部 ORANGE CUP 2021
審査員特別賞	MAGウェア	信陵大学工学部 ORANGE CUP 2021
奨励賞	聴覚・言語障がい者向け次世代コミュニケーションメダ	テクノアイデアコンテスト「テクノ愛」
選抜	もずくんー海中ドローンとディープラーニングによるもずく漁の労働革命ー	沖縄科学技術大学院大学 サイエンスin沖縄 起業のための研究能力サイエンスフェア
学生会議決選総賞	聴者の音質による音声自動翻訳に関する一検討	電子情報通信学会 九州支部
特別賞（奨励）	沖縄もずく自動収穫ドローンの開発	電子情報通信学会 情報・システム社会 105特別企画 ジュニア学生ポスターセッション
ポスター・ビデオ・レビュー賞	ディープラーニング(DQN: Drone Guardians of Ocean)ードローンとAIによる漁獲防止システムー	社会実装教育フォーラム
ポスター・ビデオ・レビュー賞	ドライバースAIードライバの安全をサポートする次世代グラスー	社会実装教育フォーラム
ポスター・ビデオ・レビュー賞	もずくんー海中ドローンとディープラーニングによるもずく漁の労働革命ー	社会実装教育フォーラム
構想賞	声色トーカーー自分の声の多言語翻訳ー	社会実装教育フォーラム
夢実現賞(ソフトウェア)	Minicraftを用いた歩行訓練サポートシステム	社会実装教育フォーラム
夢実現賞(ソフトウェア)	学習履歴を用いた新規知識学習システム	社会実装教育フォーラム



マイコンによるディープラーニングプログラムの開発



マイコンによる自作デバイスの開発

未来技術の社会実装教育

(高専発！「GEAR5.0型
未来技術人財」育成事業)

GEAR5.0事業の紹介：

*KOSENが「ライフサイエンス」の拠点構築へ

独立行政法人国立高等専門学校機構は、日本の未来技術をリードする「高専発！『Society 5.0型未来技術人財』育成事業」を実施しています。この事業は「GEAR 5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）」および「COMPASS 5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）」の二つのプロジェクトから構成されています。それらのプロジェクトを通じ、Society 5.0で実現する社会・経済構造の変化、技術の高度化、社会・産業・地域のニーズ変化を踏まえ、地域や社会の諸課題に自律的・主体的に取り組み、かつ生涯学び続ける学生を継続的に育成するためのカリキュラム点検（教育内容・方法）を行い、今後迎えるサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた「超スマート社会」を実現させるための一連の取り組みである Society 5.0時代における高専教育の質保証へ繋がります。ちなみに、Society 5.0 とは、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会であり、「日本が目指すべき未来社会の姿」とされています。

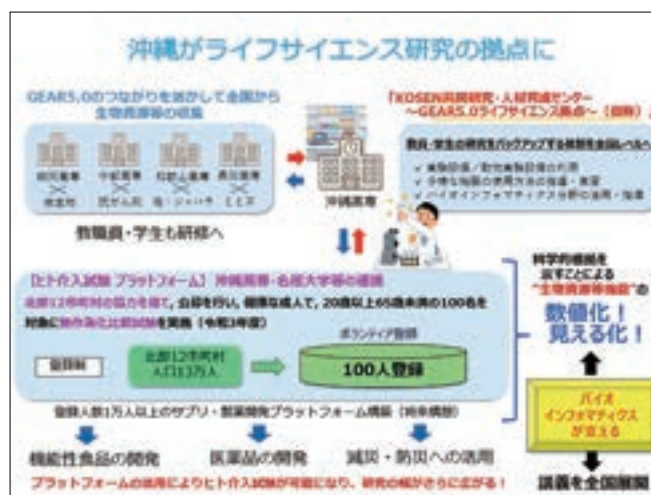
この大型プロジェクトで沖縄高専は、令和4年度もGEAR5.0の中核拠点校（研究総括：校長 佐藤貴哉、ユニットリーダー：生物資源工学科教授 池松真也）を務めます（実施期間：令和3年度～令和5年度）。全国の国立高専の中から協力校として、鶴岡高専・長岡高専・和歌山高専・宇部高専・新居浜高専とユニットを組んで進めます。達成目標となる課題は、「防災・減災・防疫」でしたが、ここ数年COVID-19と社会との関係性を見ていく中で沖縄高専に＜ライフサイエンス拠点＞を構築し、全国の有用な生物資源等を迅速に社会実装していくシステム確立を行っています。

具体的には

- (1) 各地域の生物資源等の機能性を科学的に評価し、バイオインフォマティクスの技術を活用し数値化、見える化する。
- (2) 高度な精密機器やマウスなどの動物を用いて、安全性、機能性などを評価する。
- (3) 名桜大学と共同で「ヒト介入試験のプラットフォーム」を構築し、ワンストップで「機能性食品」、「医薬品素材」の評価を行えるようにする。

これら(1)～(3)までを実現するために「ライフサイエンス」拠点「KOSEN共同研究・人材育成センター～GEAR5.0ライフサイエンス拠点～」を開設し、生物資源等の研究・開発だけでなく、**全国の高専教職員・高専生がその取り組み全てを研修できる人材育成センター**の役割を目指します。

個々の進捗状況に関しましては、本校ホームページ、LINE等にて逐次情報発信していきますので、是非注目して下さい。



学生

学生定員・現員

本科

学 科	収容 定員	現 員					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
機械システム工学科	200	41(5)	40(4)	46(2)	36(3)	30(2)	193(16)
情報通信システム工学科	200	44(3)	42(9)	42(3)	46(7)	41(9)	215(31)
メディア情報工学科	200	43(11)	44(15)	43(16)	40(9)	44(7)	214(58)
生物資源工学科	200	42(21)	39(18)	43(20)	34(19)	40(17)	198(95)
計	800	170 (40)	165 (46)	174 (41)	156 (38)	155 (35)	820 (200)

※(注) () は女子で内数。

専攻科

令和4年5月1日現在

専 攻	収容 定員	現 員		
		第1学年	第2学年	計
創造システム工学専攻	48	8(0)	6(0)	14(0)
		9(0)	3(0)	12(0)
		5(0)	4(2)	9(2)
		6(1)	10(1)	16(2)
計	48	28 (1)	23 (3)	51 (4)

※(注) () は女子で内数。

入学志願者及び入学者

令和4年度入試実績

本科

学科	募集 定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国 生徒	計	学力	推薦	帰国 生徒	計
機械システム工学科	40	33 (1)	20 (4)	0 (0)	53 (5)	18 (1)	20 (4)	0 (0)	38 (5)
情報通信システム工学科	40	41 (3)	17 (0)	0 (0)	58 (3)	26 (3)	17 (0)	0 (0)	43 (3)
メディア情報工学科	40	35 (8)	31 (10)	0 (0)	66 (18)	19 (2)	23 (9)	0 (0)	42 (11)
生物資源工学科	40	31 (19)	25 (11)	0 (0)	56 (30)	17 (10)	23 (10)	0 (0)	40 (20)
計	160	140 (31)	93 (25)	0 (0)	233 (56)	80 (16)	83 (23)	0 (0)	163 (39)

※(注) () は女子で内数。

専攻科

専攻	募集 定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	24	1 (0)	8 (0)	9 (0)	0 (0)	8 (0)	8 (0)
		2 (0)	10 (1)	12 (1)	0 (0)	9 (0)	9 (0)
		5 (1)	4 (0)	9 (1)	1 (0)	4 (0)	5 (0)
		5 (1)	5 (1)	10 (2)	1 (0)	5 (1)	6 (1)
計	24	13 (2)	27 (2)	40 (4)	2 (0)	26 (1)	28 (1)

※(注) () は女子で内数。

令和3年度入試実績

本科

学科	募集 定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国 生徒	計	学力	推薦	帰国 生徒	計
機械システム工学科	40	39 (1)	15 (3)	0 (0)	54 (4)	25 (1)	15 (3)	0 (0)	40 (4)
情報通信システム工学科	40	30 (3)	23 (7)	0 (0)	53 (10)	21 (2)	23 (7)	0 (0)	44 (9)
メディア情報工学科	40	35 (10)	39 (16)	0 (0)	74 (26)	20 (6)	23 (9)	0 (0)	43 (15)
生物資源工学科	40	28 (12)	22 (11)	0 (0)	50 (23)	18 (7)	22 (11)	0 (0)	40 (18)
計	160	132 (26)	99 (37)	0 (0)	231 (63)	84 (16)	83 (30)	0 (0)	167 (46)

※(注) () は女子で内数。

専攻科

専攻	募集 定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	24	8 (0)	1 (0)	9 (0)	5 (0)	1 (0)	6 (0)
		5 (0)	0 (0)	5 (0)	4 (0)	0 (0)	4 (0)
		1 (1)	3 (1)	4 (2)	1 (1)	3 (1)	4 (2)
		6 (1)	6 (1)	12 (2)	4 (0)	6 (1)	10 (1)
計	24	20 (2)	10 (2)	30 (4)	14 (1)	10 (2)	24 (3)

※(注) () は女子で内数。

令和2年度入試実績

本科

学科	募集 定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国 生徒	計	学力	推薦	帰国 生徒	計
機械システム工学科	40	32 (2)	10 (0)	0 (0)	42 (2)	31 (2)	10 (0)	0 (0)	41 (2)
情報通信システム工学科	40	29 (1)	22 (4)	0 (0)	51 (5)	24 (1)	19 (4)	0 (0)	43 (5)
メディア情報工学科	40	33 (9)	24 (10)	0 (0)	57 (19)	22 (7)	18 (8)	0 (0)	40 (15)
生物資源工学科	40	28 (10)	21 (12)	0 (0)	49 (22)	24 (10)	18 (10)	0 (0)	42 (20)
計	160	122 (22)	77 (26)	0 (0)	199 (48)	101 (20)	65 (22)	0 (0)	166 (42)

※(注) () は女子で内数。

専攻科

専攻	募集 定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
創造システム工学専攻	24	8 (0)	1 (0)	9 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)
		5 (0)	3 (0)	8 (0)	1 (0)	3 (0)	4 (0)
		5 (0)	1 (1)	6 (1)	1 (0)	1 (1)	2 (1)
		0 (0)	9 (5)	9 (5)	0 (0)	9 (5)	9 (5)
計	24	18 (0)	14 (6)	32 (6)	5 (0)	14 (6)	19 (6)

※(注) () は女子で内数。

地域別入学者数

出身市町村別学生数

令和4年5月1日現在

地 区	出身市町村	本 科					専 攻 科		計	地区計
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年		
北部地区	国頭村	0	0	1	0	0	0	0	1	124
	大宜味村	0	0	0	1	0	0	0	1	
	東村	1	0	1	0	0	0	0	2	
	今帰仁村	6	1	1	4	1	0	0	13	
	本部町	4	4	1	1	2	0	1	13	
	名護市	16	14	10	12	17	1	3	73	
	宜野座村	1	1	1	0	0	1	0	4	
	金武町	1	2	1	1	1	0	0	6	
	伊江村	0	1	1	0	0	0	0	2	
	恩納村	0	1	1	1	1	1	0	5	
	伊平屋村	0	1	1	1	0	0	0	3	
	伊是名村	1	0	0	0	0	0	0	1	
中部地区	うるま市	11	11	12	9	8	1	2	54	304
	読谷村	9	8	8	6	6	0	2	39	
	嘉手納町	2	1	0	1	1	0	0	5	
	沖縄市	20	13	10	23	17	1	2	86	
	北谷町	1	2	1	1	1	1	0	7	
	宜野湾市	4	9	9	5	9	0	2	38	
	北中城村	4	1	2	2	2	0	0	11	
	中城村	2	1	0	2	0	0	0	5	
	西原町	3	13	12	15	12	4	0	59	
那覇・浦添地区	浦添市	8	9	11	9	5	1	4	47	213
	那覇市	26	30	37	26	36	9	2	166	
南部地区	豊見城市	4	8	5	2	4	1	0	24	133
	糸満市	10	4	13	7	10	1	2	47	
	八重瀬町	5	6	5	2	4	0	0	22	
	南城市	5	1	4	2	5	1	0	18	
	与那原町	0	1	0	1	2	0	0	4	
	南風原町	5	5	3	1	0	4	0	18	
宮古地区	宮古島市	3	3	5	5	3	0	0	19	19
八重山地区	石垣市	3	5	4	3	2	1	1	19	20
	竹富町	1	0	0	0	0	0	0	1	
県 内 計		156	156	160	143	149	28	21	813	
県 外	宮城県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	茨城県	1	0	0	1	0	0	0	2	
	埼玉県	2	0	1	2	1	0	0	6	
	千葉県	2	3	1	0	0	0	1	7	
	東京都	0	1	0	0	1	0	0	2	
	群馬県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	滋賀県	1	1	2	0	0	0	0	4	
	大阪府	1	1	1	0	0	0	0	3	
	奈良県	0	0	0	0	1	0	0	1	
	香川県	0	1	0	0	0	0	0	1	
	愛媛県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	福岡県	1	0	0	0	1	0	1	3	
	熊本県	1	0	0	0	0	0	0	1	
	大分県	1	0	1	0	0	0	0	2	
	佐賀県	0	0	1	3	0	0	0	4	
	鹿児島県	1	2	1	3	0	0	0	7	
県 外 計		11	9	11	9	4	0	2	46	
国 外	タイ	3	0	1	0	0	0	0	4	
	チュニジア	0	0	1	0	0	0	0	1	
	マレーシア	0	0	1	1	0	0	0	2	
	モンゴル	0	0	0	2	2	0	0	4	
	台湾	0	0	0	1	0	0	0	1	
国 外 計		3	0	3	4	2	0	0	12	
合 計		170	165	174	156	155	28	23	871	

高等学校等就学支援金制度

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

※就学支援金は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではありません。学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当するものです。授業料と就学支援金との差額分については学生本人に負担していただくことになります。

【支給対象者】

本科1年生～3年生で、定められた所得判定基準未満の世帯が就学支援金支給の対象となり、学校に申請を行うことにより、下表に記載の金額が支給されます。

但し、①本校入学前に高等学校等を卒業した学生、②留年、休学等により在学期間が通算して36月を超える学生は対象となりません。

所得判定基準等

市町村民税の課税標準額 × 6% －市町村民税の調整控除の額（※） （保護者等合算額）	就学支援金支給額 （月額）	授業料負担額 （月額）
304,200円以上～	0円（支給なし）	19,550円
154,500円以上～304,200円未満	9,900円（一律支給のみ）	9,650円
0円（非課税）～154,500円未満	19,550円（加算額9,650円）	0円

※6%は市町村民税の標準税率（標準税率との関係で、調整控除の額について指定都市の場合は調整（3/4 を乗じる）が必要）。また、調整控除とは、平成19年に国から地方へ税源が移譲したことに伴い生じる個人住民税と所得税の人的控除の差額に起因する負担増を調整するための控除。

奨学生

日本学生支援機構奨学金 第一種及び第二種奨学金貸与月額表

学年		第一種奨学金	
		自宅通学	自宅外通学
本科	1年	21,000 円又は 10,000 円	22,500 円又は 10,000 円
	2年		
	3年		
	4年	45,000 円・30,000 円・ (20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・ 30,000 円・(20,000 円) から選択
	5年		
専攻科	1年	45,000 円・30,000 円・ (20,000 円) から選択	51,000 円・(40,000 円)・ 30,000 円・(20,000 円) から選択
	2年		

※（ ）は平成30年度入学者より選択可能。

令和3年度奨学金受給実績（高等教育の修学支援新制度除く）

区分			本科					専攻科		計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
在学者数			168	167	165	155	185	24	21	885
支援機構 日本学生	第一種	自宅通学	1	3	0	4	10	0	3	21
		自宅外通学	7	12	24	22	26	0	3	94
	第二種		0	0	0	8	8	1	0	17
	その他の機関		4	4	2	3	4	2	2	21
計			12	19	26	37	48	3	8	153
制度利用者の割合			7.1%	11.4%	15.8%	23.9%	25.9%	12.5%	38.1%	17.3%

学年	第二種奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
本科	4年	20,000円から120,000円までの金額の中から 1万円単位で選択可能
	5年	
専攻科	1年	20,000円から120,000円までの金額の中から 1万円単位で選択可能
	2年	

主な学費

就学費用

入学料	授業料		日本スポーツ振興センター共済掛金	
84,600円	年	234,600円	年	770円

高等教育の修学支援新制度

令和2年4月から、要件を満たす本科4年生～5年生及び専攻科生に対し、高等教育の修学支援新制度が適用され、学校に申請を行うことにより、授業料等の減免及び給付型奨学金の給付が受けられます。なお、本科1年生～3年生は「高等学校等就学支援金制度」により授業料の支援がありますので、本制度の対象外となります。

授業料等減免の上限額（年額）※

入学料（専攻科）	授業料
84,600円	234,600円

給付型奨学金の給付額（月額）※

自宅	自宅外
17,500円	34,200円

※住民税非課税世帯の学生の場合。住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、住民税非課税世帯の学生の2/3又は1/3の支援額。

令和3年度実績

区 分		本 科		専攻科		計
		4年	5年	1年	2年	
在学者数		155	185	24	21	385
前期	第Ⅰ区分	15	30	5	5	55
	第Ⅱ区分	12	13	4	1	30
	第Ⅲ区分	12	16	1	3	32
	計	39	59	10	9	117
	制度利用者の割合	25.2%	31.9%	41.7%	42.9%	30.4%
後期	第Ⅰ区分	22	31	4	6	63
	第Ⅱ区分	5	15	3	3	26
	第Ⅲ区分	8	12	2	1	23
	計	35	58	9	10	112
	制度利用者の割合	22.6%	31.4%	37.5%	47.6%	29.1%

令和4年3月卒業者の進路状況（本科）

令和4年5月1日現在

	区 分	学 科				合 計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
進 学 状 況	卒業者数※2	41	46	55	36	178
	進学希望者数	16	19	16	23	74
	進学者数	15	17	16	22	70
	うち3年次編入等進学者数	6	5	10	13	34
	うち専攻科進学者数	8	9	5	6	28
	うち専門学校・その他進学者数	1	3	1	3	8
	進学決定率(進学者数/進学希望者数)	93.8%	89.5%	100.0%	95.7%	94.6%
	進学先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(8) 千葉大学 東京農工大学 琉球大学 金沢大学 千葉工業大学 東京理科大学 沖縄高専研究生	沖縄工業高等専門学校専攻科(9) 九州大学 東京農工大学 豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 モンゴル科学技術大学 沖縄高専研究生(2)	沖縄工業高等専門学校専攻科(5) 会津大学 千葉大学 筑波大学 電気通信大学 島根大学 琉球大学(3) 東京工芸大学 東京国際工科専門職大学 文化服装学院	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 佐賀大学 島根大学 長岡技術科学大学(2) 徳島大学 信州大学 琉球大学(2) 香川大学(2) 帯広畜産大学 東京農工大学 酪農学園大学 学校法人新島学園沖縄調理師専門学校 KBC学園 沖縄ベトナム専門学校 学校法人 SOLA 学園 沖縄医療工学院	
就 職 状 況	就職希望者数	25	26	35	13	99
	就職者数	21	26	34	13	94
	就職率(就職者数/就職希望者数)	84.0%	100.0%	97.1%	100%	94.9%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	株式会社 FM やんばる 金秀アルミ工業株式会社 拓南製鉄株式会社(2) 極東建設株式会社	JTA インフォコム株式会社	株式会社ビーンズラボ(2) 株式会社サムズインターナショナル T&Cテクノロジー株式会社		
		計5名	計1名	計4名	計0名	県内計10名
		就職者に占める割合 24%	就職者に占める割合 4%	就職者に占める割合 12%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 11%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	出光興産株式会社(3) 株式会社アルプス技研 株式会社技研製作所 株式会社ダイワビジネスサポートセンター 株式会社マイタック キャノニカルシステムズ株式会社 東京ガスパイプネットワーク株式会社 日本ペイント株式会社 三菱ケミカル株式会社 メタウォーター株式会社 株式会社福井村田製作所 株式会社メイテックフィルダース 株式会社カンセツ ダイダダン株式会社	I-PEX 株式会社 NTT データファイア株式会社 NTT 東日本グループ(2) 出光興産株式会社 エア・エス・テクノロジーズ株式会社(3) 株式会社 FIXER 株式会社アルプス技研 株式会社オーエスデザイン 株式会社エンジェル・インフォメーションサービス 株式会社科学情報システムズ 株式会社日立ハイシステム21 株式会社ネオジャパン キャノマーケティングジャパン株式会社 国際ケーブル・シップ株式会社 ソフトバンク株式会社 東芝プラントシステム株式会社 独立行政法人国立印刷局 パナソニックシステムソリューションズ株式会社 富士電機株式会社 株式会社テクノプロ 株式会社ディライトテクノロジー 三興コントロール株式会社	大阪シーリング印刷株式会社 株式会社 FIXER(3) 株式会社 NS・コンピュータサービス 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社コンピュータマインド 株式会社セルシス 株式会社ソフトウェア・サイエンス(2) 株式会社タップ 株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社ドリコム 株式会社ハイマックス 株式会社ビジュアル・ラベリング・ジャパン 株式会社日立情報通信エンジニアリング 株式会社日立ハイシステム21(3) 株式会社メンバーズ(2) 凸版印刷株式会社 クラウドエース株式会社(2) エヌシーティ株式会社 株式会社アイダ設計 株式会社アルプス技研(2) 株式会社 J ストリーム 間口ジェネラルサービス株式会社	出光興産株式会社 大阪シーリング印刷株式会社 株式会社オヤマ サントリーグループ 日本たばこ産業株式会社 ユニチカ株式会社 呉羽テック株式会社 三友フロンティアサービス株式会社 株式会社オーエスデザイン(2) 株式会社アルプス技研 安達農園 中部飼料株式会社	
		計16名	計25名	計30名	計13名	県外計84名
		就職者に占める割合 76%	就職者に占める割合 96%	就職者に占める割合 88%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 89%

※1 同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を()内に示しています。

※2 卒業者数には留学生を含む。

令和4年3月修了者の進路状況（専攻科）

令和4年5月1日現在

	区 分	コ ー ス				合 計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
進学状況	修了者数	4	5	3	9	21
	進学希望者数	0	2	1	2	5
	進学者数	—	2	1	1	4
	うち大学院等進学者	—	2	1	0	3
	うち専門学校・その他進学者数	—	0	0	1	1
	進学決定率（進学者数／進学希望者数）	—	100.0%	100.0%	50.0%	80.0%
	進学先※ 1		電気通信大学大学院 和歌山大学大学院	電気通信大学大学院	沖縄高専研究生	
就職状況	就職希望者数	4	3	2	6	15
	就職者数	4	3	2	5	14
	就職率（就職者数／就職希望者数）	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	93.3%
	就職先企業名 （県内） 県内に本社のある企業		沖縄セルラー電話株式会社 JTA インフォコム株式会社		沖縄ハム総合食品株式会社	
		計 0 名	計 2 名	計 0 名	計 1 名	計 3 名
		就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 67%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 20%	就職者に占める割合 21%
	就職先企業名 （県外） 県外に本社がある企業	旭化成株式会社 キヤノンメカトロニクス株式会社 株式会社タマディック 日本精工株式会社	KDDI 株式会社	株式会社メンバーズ チームラボ株式会社	DIC 株式会社（2） 出光興産株式会社 沢井製菓株式会社	
		計 4 名	計 1 名	計 2 名	計 4 名	計 11 名
		就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 33%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 80%	就職者に占める割合 79%

※ 1 同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が進学した場合、その人数を（ ）内に示しています。

卒業生のコメント



「就職活動を終えて」

機械システム工学科 5年 高橋 海 舟

今年度、企業に内定も決まり、安心して卒業を迎えられることになりました。

私たちの学生生活を支えてくださった教職員の皆様、保護者の皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。

4年生は実感していると思いますが、高専生活は思いのほかあっという間に過ぎ、進路について考える機会はすぐにやってきます。私が就職活動を通してこれは大事なと感じたことを書き留めていきますので、就職を検討している皆さんは参考にしてみてください。

はじめに3月1日の解禁日前に自分のつきたい業種を絞る、就活の流れをある程度決める（いつまでに受ける企業を決めて、いつまでにエントリーシートを完成させるなど。）などしておくといいかもしれません。

次に、就活を自分一人で行おうとしないことです。先生やキャリアアドバイザーの方に就活だけでなく、進路など不安があることを相談、エントリーシートや履歴書、面接練習などを手伝ってもらいたいと思います。自分一人が進めようとすると気づかないことや、間違いがあることが多々あると思います。先生やキャリアアドバイザーの方にチェックしていただくことでより確実な準備ができるはずです。

最後に、初歩的なことですが会社説明会、面接では清潔感のある身なり、愛嬌（笑顔）のある話し方などを意識すると良いです。また、面接時のマナーなどですが面接中に度忘れしてしまっても、失礼のないように行動するというのを頭に入れておけば、面接官の方々に悪い印象は与えないのではと思います。

私は後悔のない就活をし、終わることができました。皆さんも悔いのないように進路活動に取り組んでいってください。

学生寮

新型コロナウイルス感染症対応について

現在学生寮では、3つの密を避ける新しい生活様式の実現のため、従来の日課とは異なる特別日課を設定しています。毎朝・毎晩の体温測定・体調報告、寮内でのマスクの着用、寮内各所への消毒用アルコールの設置、レストランでのパーティションの設置や座席数の削減、食事時間や入浴時間を長くして密集を避ける等で感染防止に努めています。

また、学生寮1F入口にサーマルカメラを導入し、帰省から寮に戻ってきた寮生の、体温確認をスムーズに行えるようにしています。

更に、体調不良時に速やかに帰省できない場合の静養室を、男子寮に8部屋、女子寮に5部屋確保しております。



サーマルカメラ



静養エリア前



浴室靴箱

学生寮経費

(令和4年度)

寄宿料	800円(月額)
寮管理費	4,300円(月額)
居室電気料	前月使用分(月額)
給食費(3食)	1,080円(日額)

※ 居室電気料は寮管理費と一緒に振替を行います。

居室数

男子寮	女子寮	合計
408室	136室	544室

※ 居室は全て1人部屋です。

※ 居室数には、静養室の数を含んでいません。

レストラン

レストランには、寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。また晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめます。



図書館 Library

図書館（メディア棟4階）は、教育・研究を支援する拠点の1つとして機能しています。

館内には自然科学や工学の専門書をはじめ、一般教養に役立つ資料、学術雑誌、百科事典、CD-ROM、DVD、ビデオテープ、カセットテープ、県内・本土・英字新聞、英語多読・多聴図書、高専・大学資料等を所蔵しています。

さらに、電子ジャーナル・データベース・電子図書システムを導入済みで多角的に「知」を培う環境提供を継続しています。

多くのことを学び、知識を広める情報収集活動の場・学習の場としてご活用ください。

開館時間

通常期	月～金曜日	8時～20時
	土曜日	9時～17時
休業期	月～金曜日	8時40分～17時
	(週末開館無し)	

※ 学校下校時刻に併せ開館時刻の変更がされることがある

休館日

日曜・祝祭日
年末年始
休業期の土曜

施設

閲覧室：740㎡
座席数：125席
AVブース：2席
メディア・ホール
自動貸出機
図書盗難防止システム
蔵書検索用端末
拡大読書機
電子ジャーナル・電子図書
閲覧用端末



蔵書数

【図書】(冊) 括弧内は内数で外国語図書

令和4年5月1日現在

総記	哲学・心理学	歴史・地理	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・体育	言語	文学	計
5,742 (326)	2,620 (94)	3,163 (98)	8,869 (313)	14,793 (1,229)	11,927 (945)	1,776 (34)	4,818 (1,059)	19,120 (16,729)	8,397 (27)	81,152 (20,854)

【雑誌】購読タイトル数 56 保有バックナンバー 16,927冊

【新聞】8紙

【視聴覚資料】1,853点

利用状況

年度	開館日数	入館者数	図書貸し出し冊数(実本)				図書等閲覧数			
			総数	学生	教職員	学外利用者	オンライン 電子図書	雑誌	新聞	電子 ジャーナル
令和3年度	288	54,596	10,522	8,188	2,319	15	195	658	1,700	1,435

情報検索データベース・電子ジャーナル

電子システム	概要
JDream III	科学技術全般文献データベース
CiNii Articles	国内論文情報データベース
Science	米国科学振興協会発行の雑誌「Science」の電子版
Science Direct	エルゼビア社の電子ジャーナル

電子システム	概要
MathSciNet	米国数学会の数学文献データベース
理科年表プレミアム	国立天文台が編纂する自然科学系データブック
Maruzen eBook Library	丸善社の電子図書システム
Kinoden	紀伊國屋社の電子図書システム

技術支援室

技術支援室は、実践的な教育・研究および地域貢献活動に対して、専門的な知識を活かして効果的・効率的に沖縄高専の教育・研究を支援するための組織です。本室には8名の技術職員が在籍し、実習工場系、電気電子情報系、生物科学分析系の技術分野を中心に専門4学科と連携した教育・研究活動を行っています。実験・実習および卒業研究においては専門的な知識に基づいた技術支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。また、夢工場、学内のネットワーク環境・機器類、温室などの全学的な施設・設備の管理を行い沖縄高専の教育研究活動を全面的に支える存在です。



材料加工システムⅠ（仕上げの実習風景）



情報通信システム工学科実験Ⅱ
（シーケンス制御の実験を行う様子）



Okinawa Kosen Camp で受け入れたシンガポールからの研修生に、地元沖縄の自然と動植物を紹介しました



高専セミナー
（ネットワーク演習の様子）



化学および化学実験法
（精密天秤を用いた質量計測）

職 名		氏 名	技 術 分 野
技術長代理・副技術長 技 術 専 門 員		藏屋 英介	実験装置の開発、天然物・食品の機能性評価、におい・香りの分析評価
技 術 専 門 員		具志 孝	汎用工作機械、CAD、CAM、NC 工作機械
工実 場 系 習	技 術 主 査 技術専門職員	大嶺 幸正	NC 工作機械、汎用工作機械、エンジン動力の性能評価
	技 術 主 査 技術専門職員	比嘉 修	高電圧装置設計・開発、水中衝撃波関連技術、高速度カメラを用いた流体可視化技術、パルスパワー技術
	技 術 専 門 職 員	新田 保敏	情報処理、ネットワーク
電 気 電 子 情 報 系	技 術 専 門 職 員	仲間 祐貴	ファシリティマネジメント（FM）に関する情報支援技術、情報処理
	技 術 主 査 技術専門職員	渡邊 謙太	バイオイメーシングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究
	技 術 職 員	白幡 大樹	海産生物の生態、遺伝子工学
分生 物 科 学 系	技 術 主 査 技術専門職員	渡邊 謙太	バイオイメーシングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究
	技 術 職 員	白幡 大樹	海産生物の生態、遺伝子工学

夢工場

沖縄高専に入学した学生は、創造力にあふれモノづくりに強い関心があり、その希望を叶える場として夢工場があります。学生の安全のため常に、技術職員が常駐しわからない事、やってみたい事があればいつでも技術相談ができる体制です。また夢工場の設備は、沖縄高専の学生なら自由に使用する事ができ、工具の貸出も行っています。使い方のわからない工具や工作機械の使用方法も教えています。さらに難しい機械加工の場合は、一緒にモノづくりの手助けを行っています。

夢工場は、実習の場でもあり基礎的なモノづくりに関連する実習を行っています。他にも、航空整備基礎実習、卒業研究、創造研究、ロボコンなど夢工場では様々な活動が行える環境が整っております。また夢工場の隣には、ロボコンの部室があり、ロボットコンテストに向けたロボット製作のバックアップも行っています。



夢工場にある工作機械



学生の実習製作品



学生の活動をテレビ、フォトフレームを使って公開している

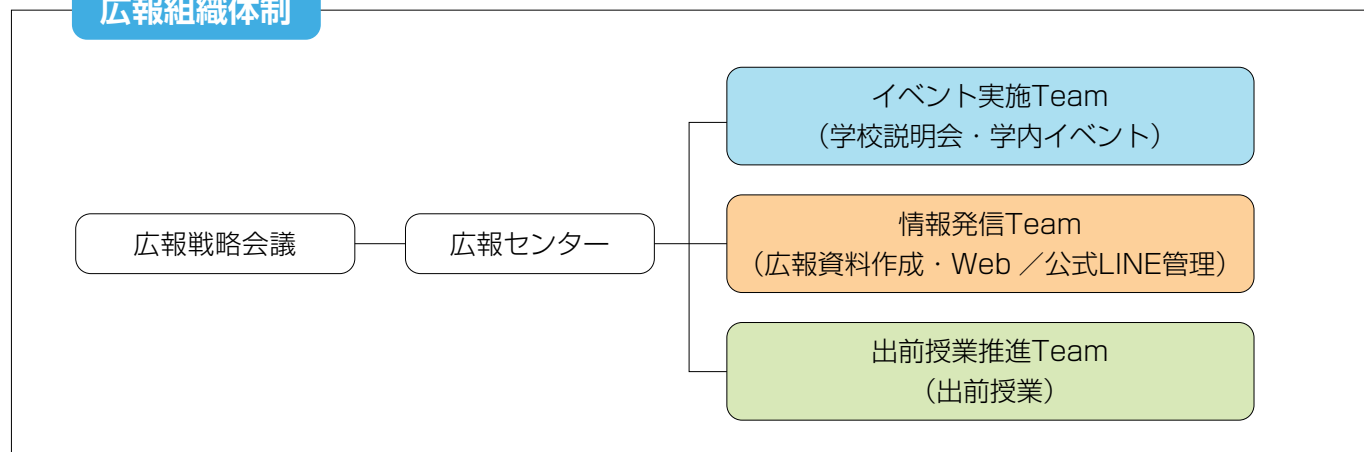


夢工場で活動するロボット製作委員会のメンバー

広報センター

沖縄工業高等専門学校は、中学生の皆さんやその保護者、県内の教育機関等に向けて本校の魅力を積極的に広報活動する目的として、2019年度から広報センターを設立しました。本センターでは広報資料や公式ホームページの更新、学校説明会等多岐に渡る活動を行っています。

広報組織体制



2021 年度広報実績

～公式LINEのスタート～

2020年10月1日から、広報センターでは公式LINEをスタートさせ、多くの方に友だち登録をしてもらいました。主に単元別数学対策講座、他学科紹介動画、その他卒業生インタビュー等、主に本校を志望する中学生を対象として様々な情報発信しています。



単元別数学対策講座



学科紹介動画

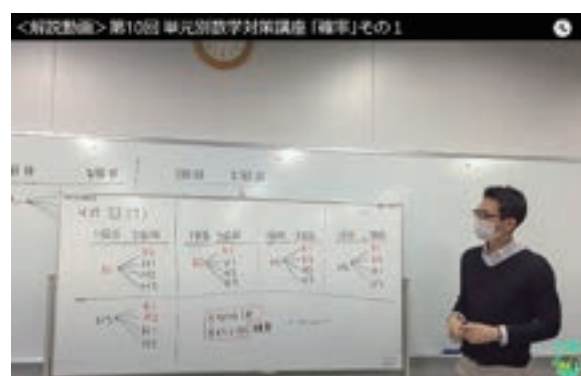


卒業生インタビュー動画

各種イベントのオンライン開催（オープンキャンパス、サマースクール、単元別数学対策講座、学校・入試説明会）
本校の各種イベントをオンラインにより開催し、コロナ禍においても本校の情報発信を続けています。



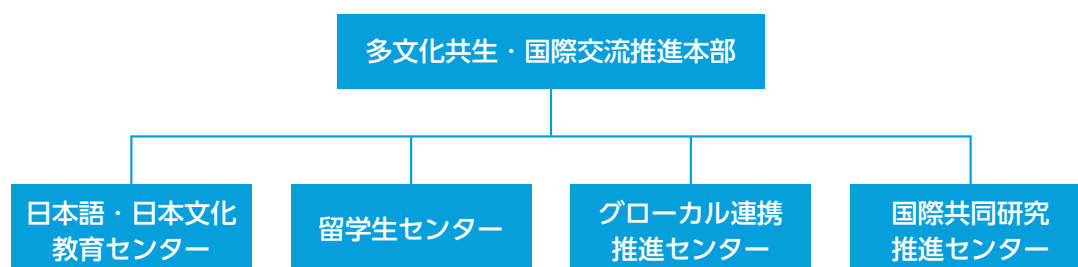
オンラインサマースクール



単元別数学対策講座（オンライン）

多文化共生・国際交流推進本部

近年グローバル化が急速に進み、変化が著しい時代にあって、沖縄高専では、沖縄県の文化・歴史・風土、地域特性等を踏まえた、増加する留学生への効果的教育等、国際的な視点・見識を持ちつつ地域に根差した人材の育成、地域の諸課題等への積極的な関与による地域振興への貢献、諸外国研究者等との国際的な先端研究を推進しています。これらへの取り組みを、教育、研究、国際の枠組みを超えて、沖縄高専を俯瞰して、学内各組織が連携して一元的に活動を行っていくための組織として、「多文化共生・国際交流推進本部」を組織し、本本部内に学内組織として新たに4つのセンターを設置しました。



各センターの役割

各センターの役割について、ご紹介いたします。

1. 日本語・日本文化教育センター

本校の外国人留学生の修学等を支援するとともに、日本人学生及び地域住民等との交流を促進し、本校における国際教育を推進します。主な業務内容は、以下のとおりです。

- A) 外国人留学生の日本語及び日本語文化教育に関すること
- B) 外国人留学生の修学、生活及び進路活動の支援に関すること
- C) 外国人留学生と日本人学生及び地域住民等との交流促進に関すること
- D) 留学生相談員（チューター）の育成及び活動の支援に関すること

2. 留学生センター

本校の学生の海外派遣及び国際交流事業並びに海外からの短期留学生受入事業を推進し、本校における学生の国際交流を推進します。主な業務内容は、以下のとおりです。

- A) 学生の海外派遣に関すること
- B) 国際交流事業に関すること
- C) 海外からの短期留学生の受入に関すること

3. グローバル連携推進センター

沖縄県及び沖縄県北部地域におけるグローバル教育及び生涯学習を推進するとともに、地域の教育機関等と連携して教育水準の向上を図り、地域振興に貢献していきます。主な業務内容は、以下のとおりです。

- A) 地域住民等へのグローバル教育の推進及び生涯学習機会の提供に関すること
- B) 地域の教育機関等との連携及び教育人材育成の支援に関すること
- C) 出前授業・公開講座等に関すること
- D) 地域のイベント等への出展に関すること

4. 国際共同研究推進センター

本校の教職員の国際共同研究及び国際交流を推進します。主な業務内容は、以下のとおりです。

- A) 教職員の国際共同研究の推進に関すること
- B) 研究者交流事業の策定・調整・実施に関すること

国際交流実績

【派遣】 過去の留学、海外交流プログラム等による主な派遣

プログラム名称等	派遣国	期 間
トビタテ！留学 JAPAN（大学生コース）	シンガポール	2015年8月21日～2015年10月21日（62日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	ネパール、タイ	2016年8月22日～2017年3月28日（96日間）
トビタテ！留学 JAPAN（大学生コース）	シンガポール、ベトナム	2016年8月22日～2017年3月28日（176日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	オーストラリア	2017年3月13日～2017年3月24日（10日間）
トビタテ！留学 JAPAN（大学生コース）	ベトナム	2018年8月26日～2018年9月26日（32日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	アメリカ	2018年8月25日～2018年9月15日（21日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	カナダ	2018年8月24日～2018年9月18日（25日間）
トビタテ！留学 JAPAN（大学生コース）	ニュージーランド	2019年4月10日～2020年11月30日（601日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	アメリカ	2019年7月14日～2019年7月28日（14日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	アメリカ	2019年8月25日～2019年9月14日（19日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	アメリカ	2019年8月4日～2019年9月22日（48日間）
トビタテ！留学 JAPAN（高校生コース）	オーストラリア	2020年2月22日～2020年3月24日（30日間）

※ R 2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大のため、新規派遣延期・中止

【受入】 令和4年度 外国人留学生、海外交流プログラム等による受入れ

プログラム名称等	出身国	学年	人数	研 修 期 間
国費外国人留学生	モンゴル	5	1	2020年4月1日～2023年3月31日
	モンゴル	4	1	2021年4月1日～2024年3月31日
	タイ	3	1	2022年4月1日～2025年3月31日
	チュニジア	3	1	2022年4月1日～2025年3月31日
政府派遣留学生	モンゴル	5	1	2020年4月1日～2023年3月31日
	モンゴル	4	1	2021年4月1日～2024年3月31日
	マレーシア	4	1	2021年4月1日～2024年3月31日
	マレーシア	3	1	2022年4月1日～2025年3月31日
	タイ	1	3	2022年4月1日～2029年3月31日
合 計			11	

※ R 2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大のため、短期研修生の受入中止

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としています。具体的には、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行います。

本校後援会のご支援により、令和4年3月からキャリアアドバイザーが学生の進路、キャリア形成全般に関するオンライン相談に対応しています（週3日：火、水、木 10：00～19：00）。また、キャリアアドバイザーとは別に、沖縄県の新規卒卒者等総合就職支援事業により、令和4年4月から就活コーディネーターがキャリア教育センター室に常駐し、学生の就職等に関する個別相談に対応しています（週5日：10：00～19：00）。



キャリア教育センター室の様子



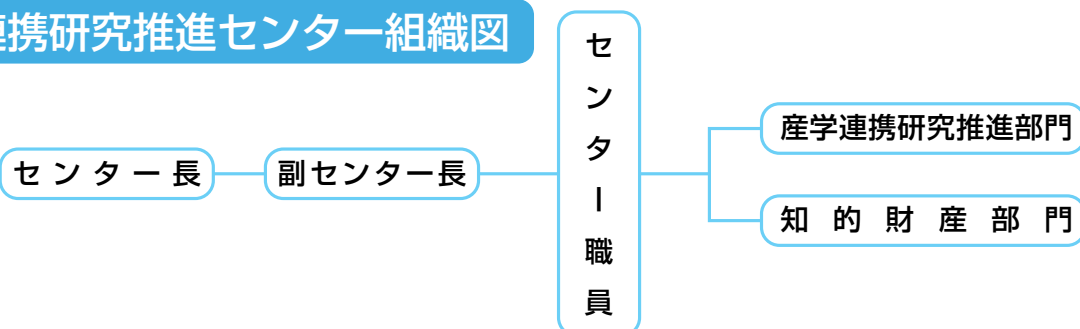
業界研究会の歩き方(オンライン実施によるキャリア講演会・セミナー)の様子

地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより、地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的としています。

当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」、「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっています。

地域連携研究推進センター組織図



技術相談会

本校では、企業等における技術的な課題を解決するため、本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用した技術相談会を実施しています。相談申込者に対する技術的な課題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っており、相談申込者と本校の共同研究に発展するものもあります。

これまで、多数の皆様が技術相談会にご参加いただき、相談申込者と本校教職員の間で活発な意見交換を行いました。今後も本校は相談申込者が抱える様々な技術課題に関して、連携により課題が解決されるよう取り組んでまいります。

定期の技術相談会としまして、毎月沖縄産業支援センター（那覇市）において、2社を対象として個別に開催しています。また、相談申込者の希望日に合わせた、随時の技術相談会も受け付けていますので、技術相談会へのお申込みをご希望の際は、総務課研究連携推進室までご連絡ください。

技術相談受入件数（過去3年度）

令和元年度	令和2年度	令和3年度
26	19	34



沖縄産業支援センターでの定期技術相談会



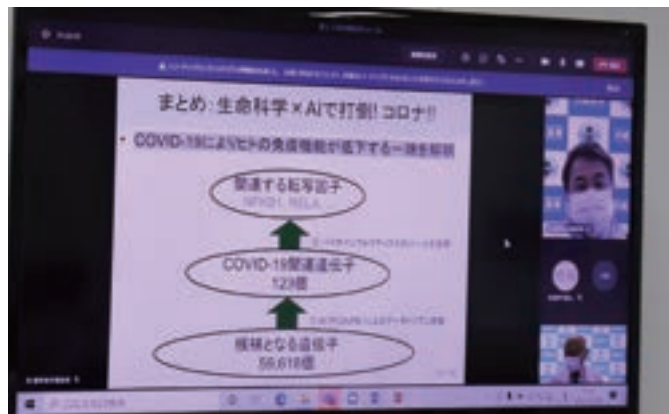
企業を訪問しての技術相談会

沖縄高専フォーラム

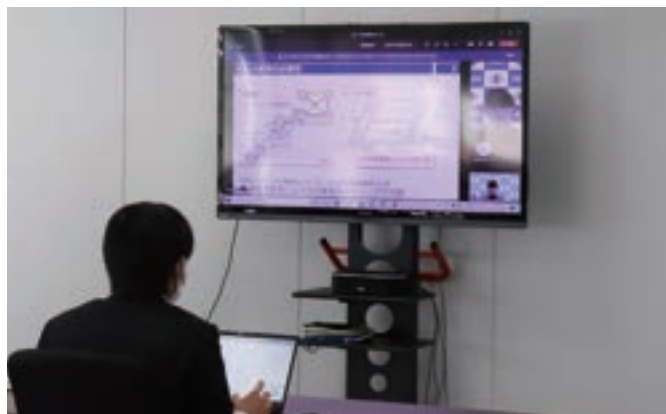
令和3年12月8日に「未来を見据えた沖縄高専の次世代人材育成」をテーマとして、第17回沖縄高専フォーラムをオンライン開催しました。

フォーラムでは、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター 兼村光様に「DXの本質ー社会で求められるDXの重要性や取り組み方ー」と題してご講演いただくとともに、本校生物資源工学科 池松真也教授による「GEAR5.0 防災減災防疫の研究・教育」、情報通信システム工学科 中平勝也准教授による「コンテストを活用した教育」の講演を行いました。

また、本校専攻科の学生4名による研究発表も行い、コロナ禍においても学びを止めることなく研究を続けてきた学生の発表は今後の活躍に期待が持てる内容でした。



池松真也教授による講演



専攻科学生の研究発表

※講演の動画は「第17回沖縄高専フォーラム ポータルサイト」
(外部サイト)より視聴することができます。

URL: <https://www.fushigiame.jp/okinawakousen/>

QRコード →



産業界との連携

平成16年4月に沖縄県内の経済・産業界を中心として、沖縄高専の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置されました。企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われています。現在、県内外の112の企業団体及び25の個人会員で組織しています。

《令和3年度 産学連携協力会の主な活動内容》

- ・産学連携協力会理事会、総会の開催
- ・沖縄高専フォーラムの共催
- ・沖縄高専ロボット製作委員会活動費の支援
- ・沖縄高専地域連携研究推進センター報制作費の支援
- ・第45回沖縄の産業まつりへの出展費の支援
- ・高専機構主催「KOSEN EXPO」参加会員企業への参加費の支援



平成31年度 沖縄高専産学連携協力会総会の様子
令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での開催。

学生相談・支援室

学生相談・支援室は、学生権利擁護の観点から、学生、保護者、教職員から寄せられる相談に応じ、安心して相談できる環境を提供します。臨床心理士の資格をもつカウンセラー（非常勤）が、授業期間中の平日は毎日、相談員として相談に応じ、学生寮においても週 4 日相談員を配置しています。また、令和 3 年度より、週 2 日ソーシャルワーカーが勤務しており、連携した支援体制づくりを行っています。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し、学生生活を改善していくことができるように、学内外の連携を強化し、必要な支援の調整にあたります。

昨今のコロナ禍の対応として、オンラインでの相談もできるようになっています。



カウンセリングルームの様子



サポートルームの様子

情報処理センター

本校では、教室や実験室だけでなく、学生寮も含め建物内のほとんどの場所でネットワークが使える環境を整えております。情報処理センターではサーバやネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、運用を行っています。また、学生が活用しているノートパソコンにトラブルが発生した際の技術相談も行っています。



ネットワーク管理室のサーバの一部

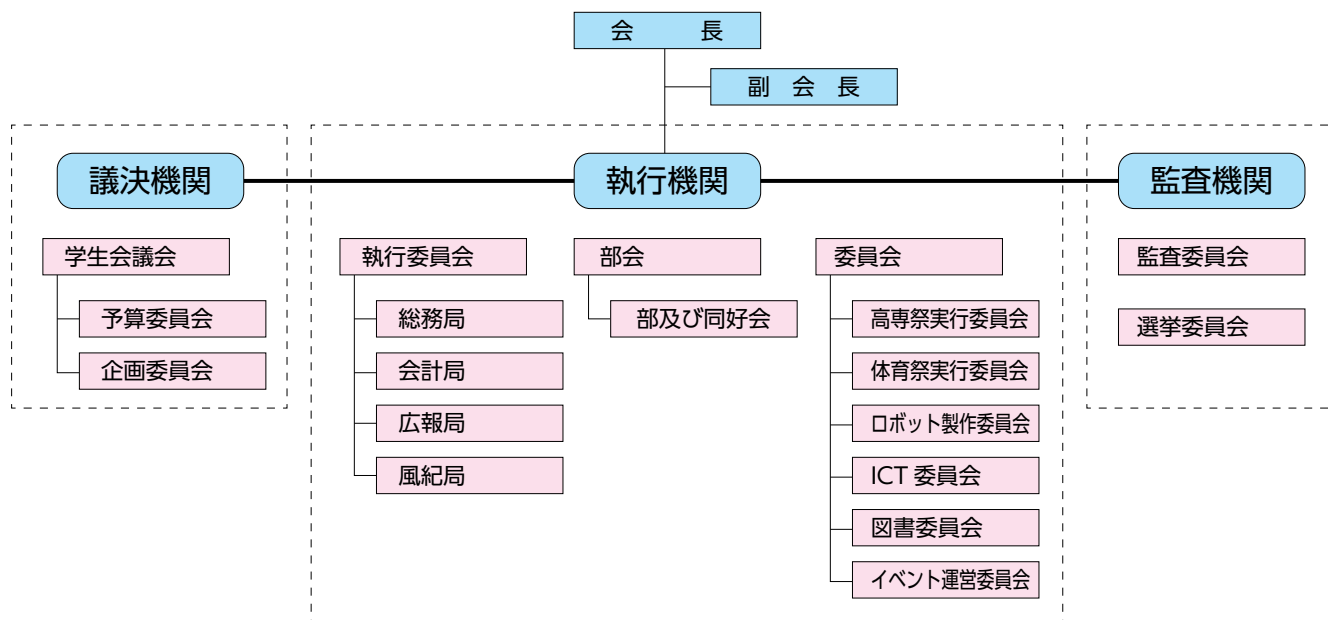


学生への技術相談の様子

学生会

<学生会組織>

本校では、「学校の指導のもとに、学生の自主的な活動を通して、会員それぞれの人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資することを目的」として、学生全員で構成する学生会を設置しております。学生会の活動には、会長をはじめとする執行委員会の活動及びそれぞれの目的を持った部会、各種委員会の活動があります。



九州沖縄地区高専体育大会主要実績

開催年度	種 目	成 績
平成29年度	バスケットボール競技 女子	優勝 (全国大会3位)
	テニス競技 男子ダブルス	準優勝
	テニス競技 女子ダブルス	準優勝
	水泳競技 女子100m平泳ぎ	2位
平成30年度	バスケットボール競技 女子	優勝 (全国大会3位)
	テニス競技 女子ダブルス	優勝
	陸上競技 男子棒高跳び	2位
	水泳競技 男子200mバタフライ	2位
	水泳競技 女子100m平泳ぎ	2位
令和元年度	陸上競技 男子棒高跳び	優勝
	テニス競技 男子シングルス	準優勝
令和3年度	水泳競技 男子200mバタフライ (代替大会)	優勝

コンテスト関係主要実績

<ロボットコンテスト（九州沖縄地区大会）>

開催年度	チーム名	成績
令和元年度	沖縄高専 A チーム	技術賞
令和2年度	沖縄高専 A チーム	特別賞
令和3年度	沖縄高専 A チーム	特別賞（全国大会出場）

<プログラミングコンテスト>

開催年度	部 門	成績
平成29年度	自由部門	特別賞
平成30年度	課題部門	特別賞
令和元年度	課題部門	特別賞

<その他のコンテスト>

開催年度	大会名	成績
平成30年度	パソコン甲子園 モバイル部門	グランプリ
	起業家甲子園	NICT 賞
令和元年度	高専ワイヤレス IoT 技術実証コンテスト 5G活用部門	ビジネスクリエイト大賞
令和2年度	全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト	矢崎賞
令和3年度	全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト	TDK 賞
	高専ワイヤレス IoT 技術実証コンテスト	社会課題解決大賞



体育祭



高専祭



ロボコン全国大会



高専体育大会

女性教員の活躍

独立行政法人国立高等専門学校機構では、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画推進体制を構築しています。（男女共同参画担当理事を長として、男女共同参画推進室を置いています。）

沖縄工業高等専門学校は、機構の下「男女共同参画推進委員会」を設置し、男女共同参画の意識啓発やワーク・ライフ・バランスのための環境整備等を推進しています。本校においても、数多くの女性教員が日々教育・研究分野等で活躍しています。



総合科学科 片山 鮎子

略歴紹介

皆さん、こんにちは。総合科学科の片山鮎子（かたやま あゆこ）です。岡山県倉敷市で生まれ育ちました。大学は奈良県の奈良大学です。奈良大学文学部国文学科を卒業後、一般企業を経て、岡山大学大学院の博士前期課程へ入学し、修士号をとりました。そのまま同大学院の博士後期課程へ進み、途中、休学して台湾の開南大学で3年間、日本語の会話を担当する講師として勤めています。帰国後、博士論文の準備を進めながら修了後の進路として、青い海と台湾に近い気候に惹かれて沖縄高専に応募し、現在は講師を勤めています。沖縄高専に在籍しながら岡山大学大学院へ復学し、2022年、博士(文学)を取得しました。専門は国語学です。

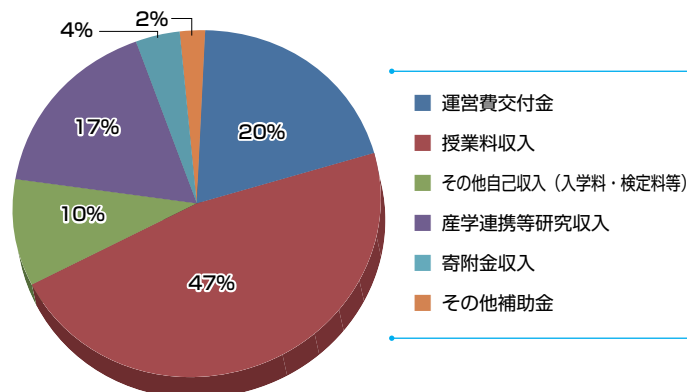
沖縄高専では主に国語を担当しています。2022年度は1年生の国語Ⅰ、3年生の国語Ⅲ、4年生の文学概論、専攻科2年生の日本文化論を担当しており、他に1年3組の担任も務めます。

趣味は読書（国語教員らしいですね）、映画鑑賞、史跡巡り、骨董市巡り、刺し子です。研究をつづけながら、週末はしっかり休んで手の込んだ料理を作ったり沖縄県の伝統料理を食べ歩いたりしています。

収支報告・外部資金

収入・支出決算額（令和2年度）

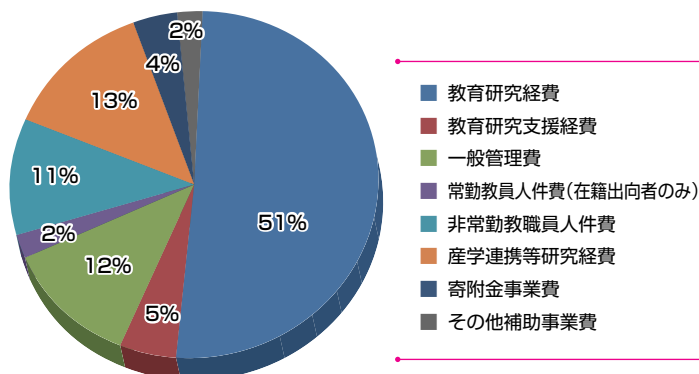
収入



収 入	金額 (単位：千円)
運営費交付金	75,326
授業料収入	176,612
その他自己収入（入学科・検定料等）	37,846
産学連携等研究収入	62,561
寄附金収入	13,945
その他補助金	8,798
計	375,088

※常勤人件費については本部事務局で計上しているため、運営費交付金に含めず

支出



支 出	金額 (単位：千円)
教育研究経費	189,965
教育研究支援経費	17,852
一般管理費	43,125
常勤教員人件費（在籍出向者のみ）	7,547
非常勤教職員人件費	41,218
産学連携等研究経費	49,373
寄附金事業費	13,930
その他補助事業費	8,798
計	371,808

外部資金

令和4年5月1日現在

年度／研究費名	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
共同研究	17	18,096	15	13,368	16	7,563
受託研究	16	49,784	12	29,851	7	12,690
科学研究費	12	10,244	17	36,018	21	33,293
寄附金	23	13,282	20	23,820	7	6,143
受託事業	1	12,000	1	13,901	2	12,810
受託試験	0	0	1	100	0	0
合 計	69	103,406	66	117,058	53	72,499

建物配置図・土地・建物

創造・実践棟

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科
- 総合科学科
- 専攻科

メディア棟

- 図書館
- IT教室・CALL教室
- 事務部
- 視聴覚ホール
- レストラン

体育館

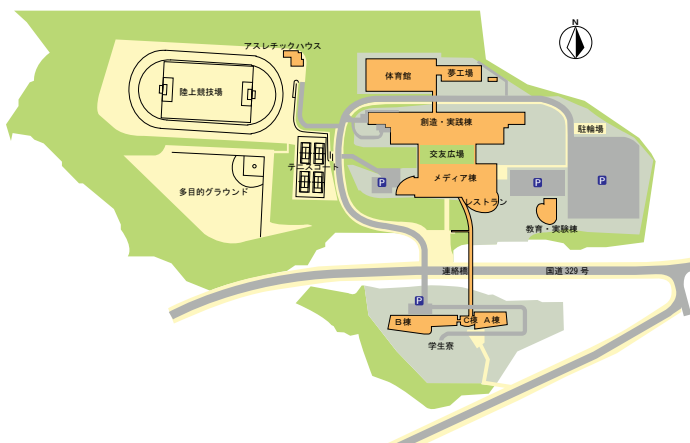
- アリーナ
- 格技場
- トレーニング場
- 伝統芸能道場
- プール

土 地

総面積	使用区分			
	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他
156,056㎡	49,100㎡	36,100㎡	11,600㎡	59,256㎡

建 物

区 分	名 称	構 造	延 面 積
校舎等施設	創造・実践棟	R4	14,009㎡
	メディア棟	R4	5,023㎡
	夢工場	S2	665㎡
	教育・実験棟	S1	498㎡
体育施設	体育館	RS2	2,707㎡
	アスレチックハウス	R2	256㎡
学生寮施設	学生寮	R9	11,105㎡
合 計			34,263㎡



国道329号から眺める建物外観



航空写真



① 校 門



② 交友広場



③ 創造・実践棟



④ メディア棟



⑤ 教育・実験棟



⑥ 学生寮



⑦ 体育館



⑧ 屋外プール



沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸

作曲 上江洲安彦

編曲 上江洲安彦

深き緑の山原の

丘に聳えし学び舎に

夢を求めて集いし我ら

友とともに、師とともに

技術の地平を切り拓く

ああ、沖縄高専

光り輝け

辺野古の海を見晴るかす

丘に聳えし学び舎に

大志抱きて集いし我ら

友とともに、師とともに

未知なる海原漕ぎ進む

ああ、沖縄高専

光り輝け

日本の最南、美ら島の

丘に聳えし学び舎に

世界目指して集いし我ら

友とともに、師とともに

パイオニアの精神連綿と

ああ、沖縄高専

光り輝け

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

Allegretto
♩ = 116

1 2 3 4 5
ふ か き - みどりの や ん ばる の おか
へ の こ - のうみを み は るかす おか
に ほ ん - のみな み ちゅ ら しまの おか

6 7 8 9 10
に - そびえ し ま な び や に ゆめを - もとめ
に - そびえ し ま な び や に たいし - いだき
に - そびえ し ま な び や に せかい - めざし

11 12 13 14
て つど い し われ ら - とも - と - ともに
て つど い し われ ら - とも - と - ともに
て つど い し われ ら - とも - と - ともに

15 16 17 18
しと ともに ぎじゅ つ の - ちへいを きりひらくあ
しと ともに みち な る - うなばら こぎすすむあ
しと ともに パイ オニアの - ここ - ろ れんめんとあ

19 20 21 22 23
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - かがや け
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - かがや け
あ お き なわ こ - せ ん ひ か り - かがや け

